

第 1 学年

		A十分満足できる	Bおおむね満足できる	評価方法
【知・技】		テスト90点以上 言葉や文字の使い方と文の組み立てを十分に理解し、文字や漢字をどの場面でも正しく読んだり書いたりできる。	テスト60点以上 言葉や文字の使い方と文の組み立てを理解し、文字や漢字を正しく読んだり書いたりする力を身に付けている。	テスト、ワークシート ノート、発表、発言等
【思・判・表】		事柄の順序をよく考えながら、工夫をして話したり聞いたり、文章を書いたりすることができる。	事柄の順序を考えながら、話したり聞いたり、文を書いたり読んだりしている。	テスト、ワークシート ノート、発表、発言等
【態】		国語に深く関心をもち、すすんで読書をしたり、話したり聞いたり、書いたりしている。	国語に関心をもち、楽しんで読書をしたり、話したり聞いたり、書いたりしている。	ワークシート、ノート 発表、発言、読書量等
月	単元名・教材名・時数・指導目標	評価規準		
4月	はるがきた 2時間（話・聞②） ◎互いの話に関心をもつことができる。（思・判・表A(1)オ） ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■絵を見て話したり応答したりする。 ☆学校生活（生活科）	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア）		
		【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもっている。（A(1)オ）		
		【態】進んで友達の話に関心をもち、これまでの経験をいかして話したり応答したりしようとしている。		
4月	さあはじめよう おはなしきたいな 2時間（読②） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■読み聞かせを聞いて楽しむ。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ）		
		【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ）		
		【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの経験をいかして読み聞かせを楽しもうとしている。		
	なんていおうかな 2時間（話・聞②） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■場面に応じた言葉や動作を考えて、伝え合う。 ☆先生や友達などの多くの人と親しみをもって関わって学校生活を楽しむことや、場に応じた挨拶に関わる題材（道徳）	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。（(1)キ）		
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（A(1)ウ）		
		【態】経験を基に積極的に言うことを考え、学習課題に沿って自分の考えを伝えようとしている。		
	かくことたのしいな 1時間（知・技①） ◎平仮名を読み、書くことができる。（知・技(1)ウ） ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くことができる。（知・技(3)ウ） ■正しい姿勢や鉛筆の持ち方を意識して書く。 ☆正しい姿勢と鉛筆の持ち方（書写）	【知・技】 ・平仮名を読み、書いている。（(1)ウ） ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書いている。（(3)ウ）		
		【態】正しい姿勢や鉛筆の持ち方で書くことに粘り強く取り組み、自分なりに、字を書く際に気をつけたいことを見つけようとしている。		

	<div>どうぞよろしく 3時間（話・聞②、書①） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ■名前カードを使って友達と交流する。 ☆互いを知り、新しい仲間をつくる題材（生活科） ☆好きなものの絵を描く活動（図画工作）</div>	<div>【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。（(1)キ）</div> <div>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア）</div> <div>【態】紹介したい事柄を積極的に選び、学習課題に沿って見つけたものをより分かりやすく紹介しようとしている。</div>
	<div>こんなものみつけたよ 2時間（話・聞②） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ■見つけたものや思ったことを友達に紹介する。 ☆学校探検（生活科）</div>	<div>【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。（(1)キ）</div> <div>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア）</div> <div>【態】紹介したい事柄を積極的に選び、学習課題に沿って見つけたものをより分かりやすく紹介しようとしている。</div>
	<div>うたにあわせてあいうえお 2時間（知・技②） ◎姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ■音読する。 ■正しい筆順で文字を書く。 ☆歌を通して正しい発声を身につける題材（音楽）</div>	<div>【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（(1)イ） ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ）</div> <div>【態】進んで姿勢や口形、発声や発音に注意し、学習課題に沿って音読しようとしている。</div>
5月	<div>ことばのたいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。</div> <div>こえにだしてよもう 1時間（読①） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■詩を音読する。 ■想像を広げながら詩を読む。</div>	

	<p>よくきいて、はなそう 2時間（話・聞②） ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■応答したり、感想を伝えたりする。</p>	<p>【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア）</p>
		<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none">・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア）・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。（A(1)イ）
		<p>【態】話す事柄の順序を進んで考えながら、これまでの学習や経験をいかして考えとわけを話そうとしている。</p>
	<p>ことばをさがそう 2時間（知・技②） ◎音節と文字との関係に気づくことができる。（知・技(1)イ） ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■言葉集めをする。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none">・音節と文字との関係に気づいている。（(1)イ）・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		<p>【態】語句の音節と文字との関係を積極的に理解し、これまでの学習をいかして言葉を集めようとしている。</p>
5月	<p>はなのみち 6時間（読⑥） ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ） ■想像を広げながら物語を読む。 ■物語の音読をする。 ☆動植物や自然に親しむことに関わる題材（道徳） ☆植物の種をまき育てることに関わる題材（生活科）</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none">・敬体で書かれた文章に慣れている。（(1)キ）・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク）
		<p>【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ）</p>
		<p>【態】興味をもって進んでお話の内容を捉え、学習課題に沿って友達と協力して音読しようとしている。</p>
5月	<p>としょかんへいこう 2時間（知・技②） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知るができる。（知・技(3)エ） ■学校図書館で好きな本を選んで読書に親しむ。 ☆好きな本を見つけたり、司書の方にきいたりする活動（図書館活用）</p>	<p>【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ）</p>
		<p>【態】積極的に図書館について知ろうとし、学習課題に沿って読みたい本を見つけようとしている。</p>
5月	<p>かきとかぎ 2時間（知・技②） ◎平仮名を読み、書くことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ）</p>	<p>【知・技】平仮名を読み、書いている。（(1)ウ）</p>
		<p>【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）</p>
		<p>【態】進んで濁音を含む言葉を見つけ、これまでの学習をいかして文字で表そうとしている。</p>

5月	ぶんをつくろう 4時間（書④） ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○句点の打ち方を理解して文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■主語と述語を意識して文を書く。	【知・技】 ・句点の打ち方を理解して文の中で使っている。（(1)ウ） ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ）
		【態】語と語との続き方を丁寧に確かめながら、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
5月	ねことねっこ 2時間（書②） ◎促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■促音や濁音のある言葉を使って文を書く。	【知・技】促音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。（(1)ウ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ）
		【態】進んで促音や濁音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
6月	わけをはなそう 2時間（話・聞②） ◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■自分の考えとそのわけを話す。 ☆わけを説明する題材（生活科・算数）	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。（A(1)イ）
		【態】話す事柄の順序を進んで考えながら、これまでの学習や経験をいかして考えとわけを話そうとしている。
6月	おばさんとおばあさん 2時間（書②） ◎長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■長音のある言葉を使って文を書く。	【知・技】長音の表記、助詞の「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。（(1)ウ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ）
		【態】進んで長音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
6月	あいうえおであそぼう 3時間（知・技③） ◎平仮名を読み、書くことができる。（知・技(1)ウ） ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ■言葉遊び歌を楽しむ。	【知・技】 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（(1)イ） ・平仮名を読み、書いている。（(1)ウ） ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ）
		【態】進んで平仮名の五十音を確かめ、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。

6月	つぼみ 8時間（知・技②、読⑥） ◎事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ■文章を読んで分かったことや考えたことを伝え合う。 ☆動植物や自然に親しむ題材（道徳） ☆図鑑でいろいろな花のつぼみを見つける活動（図書館活用）	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ）
		【態】積極的に登場人物の行動を捉え、これまでの学習をいかして音読や劇遊びをしようとしている。
6月	おもちゃとおもちゃ 2時間（書②） ◎拗音の表記、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■拗音のある言葉を使って文を書く。	【知・技】拗音の表記、句点の打ち方を理解して、文の中で使っている。（(1)ウ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。（B(1)ウ）
		【態】進んで拗音のある言葉を見つけようとし、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
6月	おおきくなった 4時間（書④） ◎観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ■観察したことを記録する文を書く。 ☆植物を観察する活動（生活科） ☆観察時に写真を撮影（ＩＣＴ活用）	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。（B(1)ア）
		【態】植物をさまざまな観点から積極的に観察し、これまでの学習をいかして観察したことを記録しようとしている。
6月	おおきなかぶ 6時間（読⑥） ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語を楽しんで音読したり、劇遊びをしたりする。 ☆人との関わりで協力したり親切にしたりする題材（道徳） ☆練習を撮影した動画をいかした振り返り（ＩＣＴ活用）	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ）
		【態】積極的に登場人物の行動を捉え、これまでの学習をいかして音読や劇遊びをしようとしている。

7月	はをへをつかおう 3時間（書③） ◎助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■助詞「は」「を」「へ」を使って文を書く。	【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】進んで助詞の使い方を確かめながら、学習課題に沿って文を作ろうとしている。
7月	好きなこと、なかに 7時間（話・聞③、書④） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ） ○相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ■「好きなこと」を紹介する。 ☆好きなことを知らせる活動（生活科）	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。（(1)キ）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。（A(1)イ） ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】粘り強く伝えたいことや表し方を考え、これまでの学習をいかして自分が好きなものとその理由を紹介しようとしている。
7月	おむすびころりん 5時間（読⑤） ◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（知・技(3)ア） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■昔話を音読したり演じたりする。 ☆練習を撮影した動画をいかした振り返り（ICT活用）	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） ・昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（(3)ア）
		【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ）
		【態】進んで昔話の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
7月	こんなことがあったよ 6時間（書⑥） ◎経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ） ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■出来事や経験を報告する文章を書く。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア）
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。（B(1)オ）
		【態】積極的に出来事や経験を思い出し、これまでの学習をいかして日記に書こうとしている。
7月	としかんとなかよし 2時間（知・技②） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ■図書館に行き、好きな本を選んで読書に親しむ。 ☆好きな本を見つけたり、司書の方にきいたりする活動（図書館活用）	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ）
		【態】積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの学習をいかして本を選ぼうとしている。

9月	ことばのたいそう	各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。	
	こえをあわせてよう	2時間（読②） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■詩を音読する。 ☆好きな詩を探して読む活動の継続（図書館活用）	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク）
			【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ）
			【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。
	みんなにしらせよう	2時間（話・聞②） ◎伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ■知らせたい内容を聞き合う。 ☆話の内容を補うために、端末で撮影した写真などを共有（ICT活用）	【知・技】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（(1)イ）
			【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（A(1)ウ） ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（A(1)エ）
	ことばをみつけよう	2時間（知・技②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■みんなで言葉遊びをする。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
			【態】積極的に言葉遊びに取り組み、これまでの学習をいかして自分でも言葉遊びを作成しようとしている。
9月	おはなしをたのしもう		
	やくそく	8時間（読⑧） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■お話を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。 ☆人との関わりや譲り合い等に関わる題材（道徳）	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク）
			【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ）
			【態】進んで登場人物の行動を確かめ、学習の見通しをもって声に出してお話を楽しもうとしている。

9月	かたかなをみつけよう 2時間（知・技①、書①） ◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。（思・判・表B(1)ウ） ■身の回りから片仮名で書く言葉を見つけて、読んだり書いたりする。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、片仮名の長音、拗音、促音、撥音などの表記を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。（B(1)ウ）
		【態】身の回りから片仮名で書く言葉を進んで見つけ、これまでの学習をいかして簡単な文を書こうとしている。
9月	よんでたしかめよう	
	うみのかくれんぼ 8時間（読⑧） ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ■説明する文章を読み、分かったことを伝える。 ☆自然に親しむ題材（道徳） ☆他の生き物の隠れ方を図鑑等で調べる活動（図書館活用）	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ）
9月	かずとかんじ	【知・技】第1学年に担当されている漢字を読み、漸次書いている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら文を書き表している。（B(1)ウ）
		【態】積極的に数え方に興味をもち、これまでの学習や経験をいかして漢字を使って数え歌を書こうとしている。
10月	おもいうかべながらよう	
	くじらぐも 8時間（知・技①、読⑦） ◎かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■読んで想像したことを伝え合う。	【知・技】 ・かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク）
		【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ）
10月	まちがいをなおそう	【知・技】助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ）
		【思・判・表】「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正している。（B(1)エ）
		【態】進んで文章を見直し、これまでの学習をいかして適切な表記に正そうとしている。

10月	くわしくかこう	
		【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。 ((1)ア) ・助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。 ((1)ウ)
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。 (B(1)ア) ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表している。 (B(1)ウ)
		【態】知らせたいものを丁寧に観察し、学習の見通しをもって見つけたことを文章にして伝えようとしている。
10月	かん字のはなし	【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。 ((1)エ)
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ)
		【態】積極的に漢字の成り立ちに興味をもち、学習課題に沿って漢字を使った短い文を書こうとしている。
10月 ～ 11月	ことばをたのしもう	【知・技】 ・音節と文字との関係に気づくとともに、発声や発音に注意して話している。 ((1)イ) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 ((1)ク) ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。 ((3)イ)
		【態】積極的に詩や早口言葉を楽しみ、これまでの学習や経験をいかして、発声や発音に気をつけながら声に出して読もうとしている。
11月	せつめいする文しょうをよもう	
		【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 ((2)ア)
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (C(1)ウ)
		【態】進んで説明における順序を考えながら読み、自分が説明するときにかきたいことを見つけようとしている。

11月	せつめいする文しょうをかこう	
	じどう車ずかんをつくろう 5時間（書⑤） ◎事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ■「じどう車しょうかいカード」を書く。 ☆自動車について書かれた図鑑等を選んで読む活動（図書館活用）	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（B(1)イ）
		【態】分かりやすい説明のしかたについて興味をもち、説明の順序に気をつけながら、見通しをもって自動車図鑑を作ろうとしている。
11月	かたかなをかこう 2時間（知・技①、書①） ◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■片仮名で書く言葉を集め、短文を書く。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（(1)ウ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】片仮名の表記のしかたに気をつけながら、これまでの学習をいかして文の中で片仮名を使おうとしている。
11月	ともだちとはなして、おはなしをかこう	
	どんなおはなしができるかな 6時間（話・聞②、書④） ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思・判・表A(1)オ） ◎文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ） ○句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ■友達と話したことを基にして物語を作る。	【知・技】 ・句読点の打ち方、かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（A(1)エ） ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（A(1)オ） ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。（B(1)オ）
		【態】物語を完成させるという見通しをもち、進んで友達に質問し、お話を書こうとしている。
11月 ～ 12月	すきなところを見つけよう	
	たぬきの糸車 8時間（読⑧） ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語の好きなところを見つけて、そのわけを話し合う。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ）
		【態】場面の様子に進んで着目し、これまでの学習をいかして、好きなところとそのわけを考えようとしている。

12月	日づけとよう日 3時間（知・技①、書②） ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■唱え歌を作る。	【知・技】 ・第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） ・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】積極的に日付や曜日を表す漢字に関心をもち、これまでの学習をいかして自分でも唱え歌を作ろうとしている。
12月	てがみをかこう	
	てがみでしらせよう 6時間（書⑥） ◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ） ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。（思・判・表B(1)エ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■伝えたいことを手紙に書く。 ☆お世話になった人に手紙を書く活動（生活科）	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。（(1)キ）
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（B(1)ウ） ・「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（B(1)エ）
		【態】書いた文章を積極的に見直ししながら、これまでの学習をいかして、身近な人に手紙を書こうとしている。
12月	本はともだち	
	むかしばなしをよもう おかゆのおなべ 8時間（書④、読④） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ■昔話を読み、感想を伝え合う。 ☆いろいろな昔話を選んで読む活動（図書館活用）	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ）
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ）
		【態】積極的に世界の昔話を読み、これまでの学習をいかして感想をカードに書いて伝えようとしている。
1月	ことばのたいそう 各配当時間を15分ずつなどに分割して扱ってもよい。	
	なりきってよもう 2時間（読②） ◎場面の様子など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ☆お気に入りの詩を見つける活動（図書館活用） ☆工夫した読み方を端末で動画撮影し、友達と交流（ICT活用）	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク）
		【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ）
		【態】進んで詩の内容を捉え、これまでの学習をいかして音読を楽しもうとしている。

	<p>くわしくきこう 2時間（話・聞②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（思・判・表A(1) エ） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1) ア） ■紹介を聞いて、質疑応答する。 ☆紹介したい本を選ぶ活動（図書館活用） ☆話す練習を動画で撮影（I C T活用）</p>	<p>【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ）</p>
		<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none">・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア）・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（A(1)エ）
		<p>【態】積極的に友達の話聞き、学習の見通しをもって、質問や感想を述べようとしている。</p>
	<p>ことばであそぼう 2時間（知・技②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ）</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none">・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（(1)オ）・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ）
		<p>【態】積極的に身近なことを表す語句を使った言葉遊びを楽しみ、これまでの学習をいかして語彙を豊かにしようとしている。</p>
1月	<p>くらべてようもう</p> <p>どうぶつの赤ちゃん 10時間（読⑩） ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ■書かれていることを比べて読む。 ☆他の動物の赤ちゃんについて書かれた本を読む活動（図書館活用）</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none">・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）・読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ） <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none">・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ）・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ） <p>【態】文章の内容を比べながら粘り強く読み、学習の見通しをもって、本から得たことを友達に知らせようとしている。</p>
1月	<p>ことばって、おもしろいな</p> <p>ものの名まえ 6時間（知・技④、話・聞②） ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。（知・技(1)オ） ○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思・判・表A(1)オ） ■尋ねたり、応答したりする。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none">・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア）・身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づいている。（(1)オ） <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（A(1)オ）</p> <p>【態】積極的に言葉の上位語と下位語に関心をもち、学習の見通しをもって、言葉を集めて「おみせやさんごっこ」をしようとしている。</p>

2月	わらしべちょうじゃ 1時間（読①） ◎昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（知・技(3)ア） ○文章を読んで感じたことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ■昔話の読み聞かせを聞く。 ☆我が国の文化や生活に親しみ愛着をもたせる題材（道徳） ☆いろいろな昔話を読む活動（図書館活用）	【知・技】昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（(3)ア）
		【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことを共有している。（C(1)カ）
		【態】積極的に昔話の読み聞かせを楽しみ、これまでの学習をいかして内容や感想を共有しようとしている。
2月	かたかなのかたち 3時間（知・技②、書①） ◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■片仮名の言葉を使って文を書く。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。（(1)ウ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】進んで形の似ている字を探し、これまでの学習をいかして片仮名の言葉を使った文を書こうとしている。
2月	ことはあそびをつくろう 6時間（知・技①、書⑤） ◎身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■言葉遊びを作る。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】身近なことを表す語句に積極的に関心を持ち、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
2月	ふたりでかんがえよう これは、なんでしょう 4時間（話・聞④） ◎互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思・判・表A(1)オ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■二人で相談し、考えをまとめる。	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（A(1)オ）
		【態】粘り強く二人で話し合い、学習課題に沿って協力してクイズを作ろうとしている。

2月 ～ 3月	よんでかんじたことをはなそう	
	ずうっと、ずっと、大すぎだよ 8時間（読⑧） ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■読んで感じたことを伝え合う。 ☆生命を尊重する心を育てる題材（道徳）	【知・技】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ） ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ） 【態】友達を考えや感想を積極的に知ろうとし、学習の見通しをもって、読んで感じたことを伝え合おうとしている。
	3月 にているかん字 3時間（知・技②、書①） ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・語と語との続き方に注意しながら、文を書き表すことができる。（思・判・表B(1)ウ） ■似ている漢字を使って文を書く。	【知・技】第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、文を書き表している。（B(1)ウ） 【態】進んで漢字の形に注意し、これまでの学習をいかして楽しみながら文を書こうとしている。
	3月 おもい出してかこう いいこといっぱい、一年生 10時間（書⑩） ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ） ○経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■経験したことを報告する文章を書く。 ☆生活を明るくする態度を育てる題材（道徳） ☆これまでの活動の様子の写真や動画を端末に保存している場合は、それらも参照（I C T活用）	【知・技】敬体で書かれた文章に慣れている。（(1)キ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（B(1)イ） 【態】事柄の順序に沿って構成を粘り強く考えながら、これまでの学習や経験をいかして1年生の思い出を伝える文章を書こうとしている。

第2学年

		A十分満足できる	Bおおむね満足できる	評価方法
	【知・技】	テスト95点以上 言葉の使い方や文の組み立てを十分に理解し、習った漢字をどの場面でも正しく読んだり書いたりできる。	テスト70点以上 言葉の使い方や文の組み立てを理解し、習った漢字を正しく読んだり書いたりする力を身に付けている。	テスト、ワークシート ノート、発表、発言等
	【思・判・表】	大事なことを落とさずに聞いたり、事柄の順序を明確にしながら、工夫をして話したり、文章を書いたり読んだりしている。	大事なことを落とさないように聞いたり、事柄の順序を明確にしながら、話したり、文章を書いたり読んだりしている。	テスト、ワークシート ノート、発表、発言等
	【態】	国語に深く関心を持ち、楽しんで読書をしたり、すすんで自分の思いや考えを伝え合おうとしたりしている。	国語に関心を持ち、楽しんで読書をしたり、自分の思いや考えを伝え合おうとしたりしている。	ワークシート、ノート 発表、発言、読書量等
月	単元名・教材名・時数・指導目標		評価規準	
4月	じゅんばんにならぼう 1時間（話・聞①） ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。（思・判・表A(1)エ） ■出された課題に応じて、声をかけ合いながら順番に並ぶ。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア）		
		【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞いている。（A(1)エ）		
		【態】自分が聞きたいことを粘り強く集中して聞き取り、学習課題に沿って声をかけ合い、正しい順番で並ぼうとしている。		
4月	絵を見てかこう つづけてみよう 1時間（書①） ○第1学年に配当されている漢字を文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵に描かれた様子を文章に書く。	【知・技】第1学年に配当されている漢字を文章の中で使っている。（(1)エ）		
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。（B(1)オ）		
		【態】絵の中から進んで書くことを見つけ、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。		
4月	どんなおはなしかをたしかめて、音読しよう ぶきのとう 9時間（読⑨） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■音読を開き合い、感想を伝え合う。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科） ☆音読の様子を撮影し、見せ合う活動（ICT活用）	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク）		
		【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ）		
		【態】場面の様子を表す言葉を手がかりに粘り強く物語の内容を確かめ、これまでの学習をいかして音読を工夫し、感想を伝え合おうとしている。		
4月	図書館たんけん 1時間（知・技①） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ■図書館の本の並べ方の決まりや工夫を見つけ、発表する。 ☆図書館で読みたい本を探し、本の分類を学ぶ教材（図書館活用） ☆書架の様子や本の並べ方の撮影（ICT活用）	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ）		
		【態】積極的に図書館の配架や本の並べ方を学び、学習課題に沿って自分の読みたい本を探そうとしている。		

4月	春がいっぱい 2時間（書②） ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■春を感じるものを見つけ、自分の感想を添えた、春のカードを作る。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科） ☆春らしい歌詞や、旋律などを楽しむ活動（音楽） ☆春を感じるものの撮影（I C T活用）	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】 「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】 積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
4月	思い出して書こう 日記を書こう 4時間（書④） ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■身近な出来事を日記に書く。 ☆学校生活や家庭生活、身近な自然や季節の行事などに目を向けさせる題材（特別活動、生活科）	【知・技】 言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア）
		【思・判・表】 「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】 進んで経験したことなどから伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって日記を書こうとしている。
4月 ～ 5月	だいたいなことをおとさないように聞こう ともだちはどこかな 【コラム】声の 出し方に 気を つけよう 5時間（話・聞⑤） ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。（思・判・表A(1)エ） ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■目的に応じて大事なことをメモしながら聞き取る。 ☆必要なことについて、身近な人と連絡し合う活動（学校生活）	【知・技】 ・音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（(1)イ） ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（A(1)ウ） ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。（A(1)エ）
		【態】 自分にとって必要なことを集中して粘り強く聞き取り、これまでの学習をいかして簡潔にメモしようとしている。
5月	じゅんじょに気をつけて読もう たんぼほのちえ 【じょうほう】じゅんじょ 10時間（知・技①、読⑨） ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ■植物の知恵について書かれている文章を読み、感想を書く。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科）	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ）
		【態】 粘り強く時間的な順序を考えて内容を捉え、学習の見通しをもって読んだ文章の感想を書こうとしている。

5月	ていねいにかんさつして、きろくしよう かんさつ名人になろう 10時間（書⑩） ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■観察したことを記録する文章を書く。 ☆育てている動植物を観察し、分かったことなどを記録する活動（生活科） ☆身近な動植物の変化や成長の様子への関心を育む題材（道徳、生活科） ☆観察するものを撮影して記録する活動（ICT活用）	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】書くために必要な事柄を進んで集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にし、これまでの学習をいかして観察記録文を書こうとしている。
6月	いなばの白うさぎ 2時間（知・技②） ◎神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（知・技(3)ア） ■神話の読み聞かせを聞き、感想を伝え合う。 ☆郷土への愛着を養う題材（道徳） ☆昔話や神話の本を図書館で探して読む活動（図書館活用）	【知・技】神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（(3)ア）
		【態】進んで神話の読み聞かせを聞き、これまでの学習をいかして感想を伝え合おうとしている。
6月	同じぶぶんをもつかん字 2時間（知・技②） ◎第2学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を読み、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字の読み書きに取り組み、学習課題に沿って、同じ部分をもつ漢字を見つけようとしている。
6月	お話を読み、すきなところをつたえよう スイミー 9時間（読⑨） ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ■物語を読み、好きな場面について伝え合う。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ）
		【態】粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って自分の好きな場面を伝え合おうとしている。
6月	かん字のひろば① 2時間（書②） ◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ・語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵を説明する文を書く。	【知・技】 ・助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） ・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語の続き方に注意している。（B(1)ウ）
		【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文を書こうとしている。
6月	【じょうほう】メモをとるとき 3時間（書③） ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ☆気づいたことや分かったことをメモする活動（生活科、学校生活）	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ） ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ）
		【態】積極的に身の回りのものから重要な情報を読み取り、学習課題に沿って、考えを交流しようとしている。

6月 ～ 7月	組み立てを考えて書き、知らせよう こんなもの、見つけたよ 【コラム】丸、点、かぎ 10時間（書㉔） ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ■自分が見つけた「いいな」と思うものを友達に伝える文章を書く。 ☆身近な地域の特徴や行事、施設などに目を向けさせる題材（生活科） ☆見つけたものを撮影する活動（ＩＣＴ活用）	【知・技】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ）
		【思・判・表】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（B(1)イ）
		【態】事柄の順序に沿った構成を粘り強く考え、学習の見通しをもって、読み手に分かりやすく伝える文章を書こうとしている。
7月	あいての考えを引き出すしつもんをしよう あったらいいな、こんなもの 7時間（話・聞㉗） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■質問をし合うことを通して考えをまとめる。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。（A(1)エ）
		【態】粘り強く話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、学習課題に沿って質問をし合って考えをまとめようとしている。
7月	夏がいっぱい 2時間（書㉔） ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■夏を感じるものを見つけ、自分の感を添えた、夏のカードを作る。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科） ☆夏らしい歌詞や、旋律などを楽しむ活動（音楽） ☆夏を感じるものの撮影（ＩＣＴ活用）	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
7月	本はともだち お気に入りの本をしようかいしよ ミリーのすてきなぼうし 6時間（読㉖） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ■お気に入りの本を紹介し合う。 ☆お気に入りの本を探す活動（図書館活用）	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ）
		【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで、感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ）
		【態】進んで読書に親しみ、学習課題に沿ってお気に入りの本を紹介しようとしている。
9月	雨のうた 2時間（読㉔） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ○詩を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ■様子を想像しながら音読して、詩を楽しむ。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク）
		【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ）
		【態】粘り強く語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読し、これまでの学習をいかして詩を楽しんで読もうとしている。

9月	ことばでみちあんない 3時間（話・聞③） ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。（思・判・表A(1)エ） ■友達と道案内をし合う。	【知・技】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。（A(1)イ） ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。（A(1)エ）
		【態】話す事柄の順序を粘り強く考え、学習課題に沿って相手を目的地に導く道案内をしようとしている。
9月	みの回りのものを読もう 2時間（読②） ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■身の回りの情報を集めて整理する。 ☆町探検（生活科） ☆見つけたものの撮影（ICT活用）	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ） ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ）
		【態】積極的に身の回りのものから重要な情報を読み取り、学習課題に沿って、考えを交流しようとしている。
9月	書いたら、見直そう 2時間（書②） ◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。（思・判・表B(1)エ） ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ■文章を声に出して読むなどして、見直す。	【知・技】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ）
		【思・判・表】「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（B(1)エ）
		【態】進んで文章を読み返し、学習課題に沿って間違いなどを正そうとしている。
9月	かん字のひろば② 2時間（書②） ◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵の言葉を使って、日記を書くように文章を書く。	【知・技】第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語の続き方に注意している。（B(1)ウ）
		【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして日記を書こうとしている。
9月	読んで考えたことを話そう どうぶつ園のじゅうい 10時間（読⑩） ◎文の中における主語と述語の関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ■説明的な文章を読んで、考えたことを話す。 ☆働くことの価値や意味を理解する精神や、身近な動物に優しい心で接する態度を養う題材（道徳、生活科）	【知・技】 ・文の中における主語と述語の関係に気づいている。（(1)カ） ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ）
		【態】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、これまでの学習をいかして、文章を読んで考えたことを友達と話そうとしている。

9月	かたかなのひろば 2時間（書②） ◎片仮名を読み、書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵の中の言葉を使って、文を作る。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。（(1)ウ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】進んで片仮名を使って書く語を見つけ、学習課題に沿って文を書こうとしている。
9月	ことばあそびをしよう 2時間（知・技②） ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ■言葉遊びを楽しむ。	【知・技】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ）
		【態】進んで、言葉の豊かさに気づき、これまでの学習をいかして言葉遊びを楽しもうとしている。
10月	なかまのことばとかん字 2時間（知・技②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。（知・技(1)エ）	【知・技】 ・第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書いている。（(1)エ） ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【態】進んで、言葉には意味によるまとまりがあることに気づき、学習課題に沿って仲間の言葉を集めようとしている。
10月	かん字のひろば③ 2時間（書②） ◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ・語と語の続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵を説明する文章を書く。	【知・技】 ・助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文の中で使っている。（(1)ウ） ・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語の続き方に注意している。（B(1)ウ）
		【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文章を書こうとしている。
10月	自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう お手紙 12時間（読②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語を読み、登場人物に向けて手紙を書く。 ☆同じシリーズの本を図書館で探して読む活動（図書館活用）	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ）
		【態】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、登場人物に手紙を書こうとしている。
10月	主語と述語に気をつけよう 2時間（知・技②） ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ）	【知・技】文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ）
		【態】積極的に、主語と述語の関係に気づき、これまでの学習をいかして主語と述語に気をつけようとしている。
10月	かん字の読み方 2時間（知・技②） ◎第2学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を読んでいるとともに、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【態】進んで第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、漢字の異なる読み方に気をつけて読もうとしている。

10月	秋がいっぱい 2時間（書②） ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■秋を感じる言葉や詩を見つけ、自分の感想を添えた、秋のカードを作る。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科） ☆秋の風情が感じられる曲や歌を楽しんだり、景色を描いたりする活動（音楽・図工） ☆秋を感じるものの撮影（ICT活用）	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
10月 ～ 11月	みんなで話をつなげよう そうだんにのってください 8時間（話・聞③） ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。（思・判・表A(1)オ） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■グループで相談する。 ☆互いの困りごとを解決するために協力する題材（学級活動、生活科） ☆話し合いの様子を撮影し、自分や相手の話し方を見返す活動（ICT活用）	【知・技】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（A(1)オ）
		【態】積極的に相手の発言を受けて話をつなぎ、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
11月	せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう 紙コップ花火の作り方 おもちゃの作り方をせつめいしよう 14時間（書⑧、読⑥） ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ■おもちゃの作り方を説明する文章を読み、それをいかして書く。 ☆おもちゃを作る活動（図工・生活科） ☆説明するおもちゃの写真の撮影（ICT活用）	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） ・「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ）
		【態】進んで文章の中の語や文を選び出したり、事柄の順序に沿って分かりやすく伝える書き表し方を工夫したり、学習の見通しをもっておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。
11月	にたいみのことば、はんたいのいみのことば 2時間（知・技②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【態】進んで言葉には意味によるまとまりがあることに気づき、学習課題に沿って、似た意味の言葉や反対の意味の言葉の組を作ろうとしている。
11月	せかいーの話 1時間（読①） ◎昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（知・技(3)ア） ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■昔話の読み聞かせを聞く。	【知・技】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（(3)ア）
		【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ）
		【態】進んで昔話の読み聞かせを聞いて伝統的な言語文化に親しみ、これまでの学習をいかして、おもしろいと思うことを共有しようとしている。

11月	かん字のひろば④ 2時間（書②） ◎第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 （知・技(1)エ） ・語と語の続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■数を表す言葉を使って、算数の問題を作って書く。 ☆足し算や引き算の問題作り（算数）	【知・技】第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語の続き方に注意している。（B(1)ウ）
		【態】進んで第1学年に担当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
11月 ～ 12月	思いうかべたことをもとに、お話をしようかいしよう みきのたからもの 10時間（読⑩） ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 （思・判・表C(1)エ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ■物語を読み、あらすじをまとめて紹介する文章を書く。 ☆教科書で紹介されている本を参考に、楽しく読める本を図書館で探して読む活動（図書館活用）	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） ・読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ）
		【態】登場人物の様子を具体的に想像することに積極的に取り組み、学習の見通しをもってお話を紹介する文章を書こうとしている。
12月	組み立てを考えて、お話を書こう お話のさくしやになろう 10時間（書⑩） ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ■絵から想像を広げて物語を書く。	【知・技】文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ）
		【思・判・表】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（B(1)イ）
		【態】事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿って、物語を書こうとしている。
12月	冬がいっぱい 2時間（書②） ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■冬を感じる言葉や詩を見つけ、自分の感想を添えた、冬のカードを作る。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科） ☆冬の季節感が感じられる曲や歌を楽しむ活動（音楽） ☆冬を感じるものの撮影（ICT活用）	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
1月	ねこのこ おとのはなびら はんたいことば 2時間（読②） ◎詩を読んで、感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■詩を楽しんで読み、お気に入りの詩をカードに書いて交流する。 ☆友達に贈る詩を図書館で探す活動（図書館活用）	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク）
		【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで、感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ）
		【態】詩を読んで感じたことを進んで共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。

1月	かたかなで書くことば 2時間（書②） ◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵と対応する文を書く。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使っている。（(1)ウ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】積極的に、片仮名で書く語の種類を知り、これまでの学習をいかして、片仮名を使って文を書こうとしている。
1月	ことばを楽しもう 1時間（知・技①） ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ■言葉遊びを楽しむ。	【知・技】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ）
		【態】積極的に、言葉の豊かさに気づき、学習課題に沿って言葉遊びを楽しもうとしている。
1月	だいたいなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう ロボット 12時間（読⑫） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ◎文章を読んで、感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ■ロボットについて説明する文章を読み、考えたことを伝え合う。 ☆ロボットを紹介している本を、図書館で探して読む活動（図書館活用） ☆ロボットについてのインターネット検索（ICT活用）	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ） ・「読むこと」において、文章を読んで、感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ）
		【態】文章を読んで、感じたことや分かったことを進んで共有し、学習の見通しをもって、本を読んで分かったことを説明しようとしている。
1月	ことばについて考えよう ようすをあらわすことば 4時間（知・技①、書③） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■様子を表す言葉を使って文を書く。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】進んで身近なことを表す語句の量を増やして語彙を豊かにし、学習課題に沿って、様子を表す言葉を使って文を書こうとしている。
1月 ～ 2月	詩を作って、読み合おう 見たこと、かんじたこと 6時間（書⑥） ◎詩に対する感想を伝え合い、自分の詩の内容や表現のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■経験したことを基に詩を書く。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、詩に対する感想を伝え合い、自分の詩の内容や表現のよいところを見つけている。（B(1)オ）
		【態】粘り強く身近なことを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって詩を書こうとしている。
2月	カンジーはかせの大はつめい 2時間（知・技②） ◎第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。（知・技(1)エ）	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書いている。（(1)エ）
		【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を読んだり書いたりし、これまでの学習をいかして漢字クイズに取り組もうとしている。
2月	思いをつたえる手紙を書こう ずてきなところをつたえよう 10時間（書⑩） ◎丁寧な言葉と普通言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ） ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■友達に手紙を書いて届ける。 ☆よりよい人間関係を築くのに資する題材（生活科・道徳）	【知・技】丁寧な言葉と普通言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。（(1)キ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】積極的に語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫し、これまでの学習をいかして手紙を書こうとしている。

2月 ～ 3月	読んで、かんじたことをつたえ合おう スーホの白い馬 14時間（読①） ◎文章を読んで、感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語を読み、最も心を動かされたことについて、感想を交流する。 ☆世界の文化や風土などに親しむ題材（道徳）	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章を読んで、感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ）
		【態】文章を読んで感じたことや分かったことを進んで共有し、学習課題に沿って、最も心を動かされたことを伝え合おうとしている。
3月	かん字の広場⑤ 2時間（書②） ◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ・語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵の様子を説明する文を書く。	【知・技】 ・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ）
		【思・判・表】「書くこと」において、語と語の続き方に注意しながら内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文を書こうとしている。
3月	組み立てを考えて、はっぴょうしよう 楽しかったよ、二年生 8時間（話・聞⑧） ◎音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ） ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■心に残ったことを発表する。 ☆1年間の生活を振り返り、心に残った経験などを紹介する活動（特別活動・生活科） ☆1年間を振り返り、自分の成長を実感させる題材（生活科） ☆練習時の様子の撮影（ICT活用）	【知・技】 ・音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（(1)イ） ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。（(1)キ）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。（A(1)イ） ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（A(1)ウ）
		【態】行動したことや経験したことに基づいて話す事柄の順序を粘り強く考え、これまでの学習をいかして発表しようとしている。
3月	二年生をふりかえて 1時間（書①） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■1年間の国語の学習活動を振り返って書く。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア）
		【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】進んで、経験したことなどから書くために必要な事柄を集めたり確かめたりし、これまでの学習をいかして、1年間の振り返りを書こうとしている。

第3学年

		A十分満足できる	Bおおむね満足できる	評価方法
【知・技】		テスト95点以上 語句の使い方や段落の役割を深く理解し、これまでに学習した漢字を読んだり書いたりする技能を十分に身に付けている。	テスト65点以上 語句の使い方や段落の役割を理解し、これまでに学習した漢字を読んだり書いたりする技能を身に付けている。	テスト、ノート、ワークシート、発表、発言等
【思・判・表】		自分の思いや考えをまとめ、相手に伝わるように筋道立てて話したり、必要なことを落とさないように聞いたりして、伝え合う力を高めている。また、文章の構成を整えて十分に書いたり読んだりしている。	自分の思いや考えをまとめ、相手に伝わるように話したり、必要なことを落とさないように聞いたりしている。また、文章の構成を考えて書いたり読んだりしている。	テスト、ノート、ワークシート、発表、発言等
【態】		言葉がもつ良さに気づき、思いや考えをすすんで伝え合おうとしたり、幅広く読書しようとしたりしている。	言葉がもつ良さに気づき、思いや考えを伝え合おうとしたり、幅広く読書しようとしたりしている。	ノート、ワークシート、発表、発言等
月	単元名・教材名・時数・指導目標	評価規準		
4月	よく聞いて、じこしょうかい 1時間（話・聞①） ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる。（思・判・表A(1)エ） ■自己紹介をする。 ☆楽しい学級づくり（特別活動）	【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。（(1)イ）		
		【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話し手が伝えたいことの中心を捉えている。（A(1)エ）		
		【態】積極的に相手を見て話したり聞いたりし、学習課題に沿って自己紹介をしようとしている。		
4月	どきん 1時間（読①） ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ■詩を楽しんで音読する。	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（(1)ク）		
		【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。（C(1)カ）		
		【態】積極的に文章全体の構成や内容の大体を意識し、学習課題に沿って楽しんで詩を音読しようとしている。		
4月	わたしのさいこうの一日 つづけてみよう 1時間（書①） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ■日記を書く。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っている。（(1)オ）		
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）		
		【態】経験したことや想像したことなどから書くことを進んで選び、学習課題に沿って日記を書こうとしている。		
4月	登場人物の気持ちをたしかめ、そうぞうしたことをつたえ合おう 春風をたどって 8時間（読⑧） ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ■読んで想像したことを伝え合う。 ☆自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすることを育てる題材（道徳）	【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（(1)ク）		
		【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。（C(1)イ）		
		【態】進んで、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。		

4月	図書館たんていだん 1時間（知・技①） ◎読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ■図書館の地図を作り、本を探す。 ☆図書館の配架を知る活動（図書館活用）	【知・技】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ）
		【態】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことを積極的に知り、学習課題に沿って学校図書館の工夫について調べようとしている。
4月	国語辞典を使おう 2時間（知・技②） ◎辞書の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ☆考えをまとめる活動などの漢字の確かめ（総合的な学習の時間など）	【知・技】辞書の使い方を理解し使っている。（(2)イ）
		【態】進んで辞書の使い方を理解し、学習課題に沿って国語辞典を使おうとしている。
4月	漢字の広場① 2時間（書②） ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）
		【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
4月	春のくらし 2時間（書②） ◎語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■春を感じたことについて、文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆春を感じたものの撮影（ICT活用）	【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
5月	知りたいことを考えながら聞き、しつもんしよう もっと知りたい、友だちのこと 【コラム】きちんとつたえるために 6時間（話・聞⑥） ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ◎必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■知らせたいことを話したり、知りたいことを質問したりする。 ☆友達の新たな一面やよさを知る活動（特別活動、道徳）	【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。（(1)イ）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。（A(1)エ）
		【態】粘り強く話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって話したり、質問したりしようとしている。
5月	漢字の音と訓 2時間（知・技②） ◎第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。（知・技(1)エ）	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。（(1)エ）
		【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿ってよりよく漢字を学ぼうとしている。
5月	漢字の広場② 2時間（書②） ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○接続する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	【知・技】 ・第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） ・接続する語句の役割について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）
		【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。

5月	<div>まとまりをとらえて読み、かんそうを話そう</div> <div>文様</div> <div>こまを楽しむ</div> <div>【じょうほう】全体と中心</div> <div>8時間（知・技①、読⑦）</div> <div>◎全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア）</div> <div>◎段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)ア）</div> <div>○段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）</div> <div>○目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。（思・判・表C(1)ウ）</div> <div>■説明する文章を読み、感想を伝え合う。</div> <div>☆伝統や文化を知り、歴史を愛する題材（道徳）</div>	<div>【知・技】</div> <div>・段落の役割について理解している。（(1)カ）</div> <div>・全体と中心など情報と情報との關係について理解している。（(2)ア）</div>
		<div>【思・判・表】</div> <div>・「読むこと」において、段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えている。（C(1)ア）</div> <div>・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。（C(1)ウ）</div>
		<div>【態】</div> <div>進んで段落相互の關係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って説明する文章を読んだ感想を伝え合おうとしている。</div>
6月	<div>相手に分かりやすいように、あんないの手紙を書こう</div> <div>気持ちをこめて、「来てください」</div> <div>4時間（書④）</div> <div>◎丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。（知・技(1)キ）</div> <div>◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ）</div> <div>○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア）</div> <div>■行事を案内する手紙を書く。</div> <div>☆時と場に応じた適切な手紙を書く活動（社会、総合的な学習の時間）</div>	<div>【知・技】</div> <div>・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。（(1)ア）</div> <div>・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（(1)キ）</div>
		<div>【思・判・表】</div> <div>「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）</div>
		<div>【態】</div> <div>粘り強く、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整え、学習の見通しをもって行事を案内する手紙を書こうとしている。</div>
6月	<div>漢字の広場③</div> <div>2時間（書②）</div> <div>◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）</div> <div>・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ）</div> <div>■絵を見て想像したことを基に文を書く。</div>	<div>【知・技】</div> <div>第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）</div>
		<div>【思・判・表】</div> <div>「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）</div>
		<div>【態】</div> <div>積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。</div>
6月	<div>登場人物のへんかに気をつけて読み、すきな場面について話し合おう</div> <div>まいごのかぎ</div> <div>6時間（読⑥）</div> <div>◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ）</div> <div>○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）</div> <div>■物語を読んで、好きな場面について話し合う。</div>	<div>【知・技】</div> <div>様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（(1)オ）</div>
		<div>【思・判・表】</div> <div>「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ）</div>
		<div>【態】</div> <div>登場人物の気持ちの変化について、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って物語の好きな場面について話し合おうとしている。</div>

6月	俳句を楽しもう 1時間（知・技①） ◎易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ■俳句を音読する。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆五音と七音を組み合わせた詩などを探す活動（図書館活用）	【知・技】易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア）
		【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って俳句を音読しようとしている。
6月	こそあど言葉を使いこなそう 2時間（知・技②） ◎指示する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）	【知・技】指示する語句の役割について理解している。（(1)カ）
		【態】積極的に指示する語句の役割について理解し、学習課題に沿って使おうとしている。
6月	【じょうほう】引用するとき 3時間（知・技①、書②） ◎引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■本などから調べたことを書き留め、引用して文章を書く。 ☆調べたことを文章にまとめる活動（社会など）	【知・技】引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。（(2)イ）
		【思・判・表】書くことにおいて、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】積極的に引用のしかたや出典の示し方を理解し使い、学習課題に沿って本などから調べたことを引用して文章を書こうとしている。
7月	つたえたいことをはっきりさせて、ほうこくする文章を書こう 仕事のくふう、見つけたよ 【コラム】符号など 10時間（書⑩） ◎相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。（知・技(1)ウ） ○段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■調べたことを報告する文章を書く。 ☆調べたいことを決めて、調査を行い、報告する文章にまとめる活動（社会、総合的な学習の時間） ☆調べる仕事についての本を探す活動（図書館活用） ☆見つけた工夫の撮影（ＩＣＴ活用）	
		【知・技】 ・改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。（(1)ウ） ・段落の役割について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
7月	夏のくらし 2時間（書②） ◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■夏を感じたことについて文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆夏を感じたものの撮影（ＩＣＴ活用）	【知・技】語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
7月	本は友だち 本で知ったことをクイズにしよう 鳥になったきょうりゅうの話 5時間（読⑤） ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ■図鑑や科学読み物を読んで、クイズを出し合う。 ☆本を選んで読む活動（図書館活用）	
		【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ）
		【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。（C(1)カ）
		【態】進んで幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って本で知ったことをクイズにしようとしている。

9月	わたしと小鳥とすずと 夕日がせなかをおしてくる 2時間（読②） ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■詩を読んで、思ったことや感じたことを話し合う。	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（(1)ク）
		【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ）
		【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を読んで思ったことや感じたことを話し合おうとしている。
9月	こんな係がクラスにほしい 3時間（話・聞③） ◎考えとそれを支える理由や事例について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ） ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりすることができる。（思・判・表A(1)ア） ■グループで話し合い、考えを整理してまとめる。 ☆係活動における話し合い（特別活動）	【知・技】考えとそれを支える理由や事例について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりしている。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（A(1)オ）
		【態】進んで互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習の見通しをもってグループで話し合い、考えを整理してまとめようとしている。
9月	ポスターを読もう 2時間（読②） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ○比較や分類のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。（思・判・表C(1)ウ） ■ポスターを読み比べて、考えたことを伝え合う。	【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。（(2)イ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。（C(1)ウ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ）
		【態】文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
9月	書くことを考えるときは 2時間（書②） ◎比較や分類のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■夏休みの思い出を書く。	【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。（(2)イ）
		【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】粘り強く集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って夏休みの思い出を書こうとしている。
9月	漢字の組み立て 3時間（知・技③） ◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解することができる。（知・技(3)ウ）	【知・技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。（(3)ウ）
		【態】漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて粘り強く理解し、学習課題に沿って漢字の構成を捉えようとしている。
9月	ローマ字 4時間（知・技④） ◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことができる。（知・技(1)ウ） ☆ローマ字入力（ＩＣＴ活用）	【知・技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。（(1)ウ）
		【態】進んでローマ字で表記されたものを読み、学習課題に沿ってローマ字で書いたり入力したりしようとしている。

9月 ～ 10月	場面をくらべながら読み、感想を書こう	
	ちいちゃんのかげおくり 10時間（読⑩） ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語を読み、感想をまとめる。 ☆戦争や平和について考え、平和を願う心を養う題材（道徳）	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ）
		【態】文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って物語を読んだ感想をまとめようとしている。
10月	修飾語を使って書こう 2時間（知・技②） ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解することができる。（知・技(1)カ） ○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。（知・技(1)オ）	【知・技】 ・言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。（(1)オ） ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解している。（(1)カ）
		【態】粘り強く修飾と被修飾との関係について理解し、学習課題に沿って修飾語を使って文を書こうとしている。
10月	秋のくらし 2時間（書②） ◎語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■秋を感じたことについて文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆秋を感じたものの撮影（I C T活用）	【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
10月	進行にそって、はんで話し合おう	
	おすすめのーさつを決めよう 8時間（話・聞⑧） ◎比較や分類のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ） ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■グループで役割を決めて話し合い、考えをまとめる。 ☆インタビューによって調査する活動（社会、総合的な学習の時間） ☆おすすめの本を選ぶ活動（図書館活用）	【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。（(2)イ）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（A(1)オ）
		【態】粘り強く司会などの役割を果たしながら話し合い、学習の見通しをもって考えをまとめようとしている。
11月	れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう	
	ずがたをかえる大豆 食べ物のひみつを教えます 12時間（書⑥、読⑥） ◎比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。（思・判・表C(1)ウ） ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ■筆者の説明の工夫を見つけ、食材について説明する文章を書く。 ☆食育に関わる題材（総合的な学習の時間） ☆食べ物について書かれた本を探す活動（図書館活用）	【知・技】 ・比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使っている。（(2)イ） ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ）
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（B(1)イ） ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。（C(1)ウ）
		【態】目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つげたり、それらを明確にして文章の構成を考えたりし、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。

11月	ことわざ・故事成語 4時間（知・技②、書②） ◎長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うことができる。（知・技(3)イ） ○目的を意識して、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■ことわざの意味を調べ、ことわざ辞典を作る。	【知・技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。（(3)イ）
		【思・判・表】「書くこと」において、目的を意識して、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】積極的にことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使い、学習課題に沿ってことわざ辞典を作ろうとしている。
11月	漢字の意味 2時間（知・技②） ◎漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ）	【知・技】漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ）
		【態】積極的に漢字と仮名を用いた表記を理解し、これまでの学習をいかして文や文章の中で使おうとしている。
11月	短歌を楽しもう 1時間（知・技①） ◎易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	【知・技】易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア）
		【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って短歌を音読したり暗唱したりしようとしている。
11月	漢字の広場④ 2時間（書②） ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）
		【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
12月	登場人物の行動や気持ちをとらえて、えらんだ民話をしょうかいしよう 三年とうげ 6時間（読⑥） ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○引用のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■民話や昔話を紹介する。 ☆世界の文化に対する興味・関心を促し、その理解を図る題材（道徳、総合的な学習の時間） ☆民話や昔話を探す活動（図書館活用）	
		【知・技】 ・引用のしかたを理解し使っている。（(2)イ） ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ）
		【態】登場人物の行動や気持ちなどについて、積極的に叙述を基に捉え、学習課題に沿って民話や昔話を紹介しようとしている。

12月	しょうかいする文章を書き、感想をつたえ合おう	
	わたしの町のよいところ 10時間（書⑩） ◎書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つげることができる。（思・判・表B(1)オ） ○考えとそれを支える理由について理解することができる。（知・技(2)ア） ■町のよさを紹介する文章を書く。 ☆身近な地域を観察・調査する題材（社会） ☆文章に適切な写真の撮影（ＩＣＴ活用）	【知・技】考えとそれを支える理由について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。（B(1)オ）
		【態】積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけ、学習課題に沿って町のよさを紹介する文章を書こうとしている。
12月	冬のくらし 2時間（書②） ◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■冬を感じたことについて文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆冬を感じたものの撮影（ＩＣＴ活用）	【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
1月	詩のくふうを楽しもう 4時間（書②、読②） ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つげることができる。（思・判・表B(1)オ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■詩を創作する。 ☆詩を探す活動（図書館活用）	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（(1)ク）
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。（B(1)オ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ）
		【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を創作しようとしている。
1月	四まいの絵を使って 2時間（書②） ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ○段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）	【知・技】段落の役割について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（B(1)イ）
		【態】書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えることに粘り強く取り組み、学習課題に沿って物語の流れを書こうとしている。
1月	カンジーはかせの音訓かるた 2時間（知・技②） ◎第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。また、第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿って漢字の音訓を使った文を書こうとしている。
1月	漢字の広場⑤ 2時間（書②） ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）
		【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。

1月	読んで考えたことをつたえ合おう	
	ありの行列 7時間（読⑦） ◎指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。（知・技(1)オ） ■文章を読んで考えたことを伝え合う。 ☆生き物の生態や不思議さに目を向けさせる題材（理科）	【知・技】 ・言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。（(1)オ） ・指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ） ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。（C(1)カ） 【態】 進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。
1月 ～ 2月	言葉について考えよう	
	つたわる言葉で表そう 5時間（知・技②、書③） ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■相手に伝わる文章を書く。 ☆体験したことを報告する文章にまとめる活動（社会、総合的な学習の時間）	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】 言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに積極的に気づき、学習の見通しをもって相手に伝わる文章を書こうとしている。
2月	書き表し方をくふうして、物語を書こう	
	たから島のぼうけん 8時間（書⑧） ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■物語を創作する。	【知・技】 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】 「書くこと」において、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】 進んで様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにし、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。
2月	つたえたいことを、理由をあげて話そう	
	お気に入りの場所、教えます 8時間（話・聞⑧） ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ◎相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■お気に入りの場所を発表する。 ☆発表に適切な写真の撮影（ＩＣＴ活用） ☆発表の練習を撮影し見返すことでよりよくする活動（ＩＣＴ活用）	【知・技】 ・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。（(1)イ） ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。（A(1)イ） ・「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。（A(1)ウ） 【態】 進んで話の中心が明確になるように話の構成を考え、学習課題に沿ってお気に入りの場所を発表しようとしている。

3月	登場人物について考えたことを、つたえ合おう	
	モチモチの木 12時間（読⑫） ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■登場人物について考えたことをまとめ、伝え合う。 ☆他者への愛情をもち、勇気をもって実行する姿勢を育てる題材（道徳）	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。（C(1)カ）
		【態】登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に粘り強く想像し、学習課題に沿って考えたことをまとめ、伝え合おうとしている。
3月	漢字の広場⑥ 2時間（書②） ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○修飾と被修飾との関係について理解することができる。（知・技(1)カ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	【知・技】 ・第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） ・修飾と被修飾との関係について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）
		【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
3月	三年生をふり返って 1時間（書①） ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■1年間の国語科での学びを振り返って、書く。 ☆一人一人のキャリア形成と自己実現を育む題材（特別活動）	【知・技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。（(1)ア）
		【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。

第4学年

		A十分満足できる	Bおおむね満足できる	評価方法
	【知・技】	テスト95点以上 言葉の使い方や語と語の役割・関係を深く理解し、これまでに習った漢字を読んだり書いたりする技能を十分に身に付けている。	テスト65点以上 言葉の使い方や語と語の役割・関係を理解し、これまでに習った漢字を読んだり書いたりする技能を身に付けている。	テスト、ノート、ワークシート、発表、発言等
	【思・判・表】	自分の思いや考えをまとめ、相手に伝わるように筋道立てて話したり、必要なことを落とさないように聞いたりするとともに、文章の構成を考えて十分に書いたり読んだりしている。	自分の思いや考えをまとめ、相手に伝わるように話したり、必要なことを落とさないように聞いたりするとともに、文章の構成を考えて書いたり読んだりしている。	テスト、ノート、ワークシート、発表、発言等
	【態】	言葉がもつよさに気付き、幅広く読書をし、思いや考えをすすんで伝え合おうとしている。	言葉がもつよさに気付き、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとしている。	ノート、ワークシート、発表、発言等
月	単元名・教材名・時数・指導目標		評価規準	
4月	力を合わせてばらばらに 1時間（話・聞①） ○様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ■必要なことを聞いて情報を集める話し合いをする。		【知・技】様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ）	
			【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。（A(1)エ）	
			【態】積極的に、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって、情報を集める話し合いをしようとしている。	
4月	春のうた 1時間（読①） ◎詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■想像しながら詩を音読する。 ☆自然のすばらしさに感動し、自然や動植物を大切にする心を育てる題材（道徳）		【知・技】詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（(1)ク）	
			【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ）	
			【態】積極的に情景などを具体的に想像して読み、学習課題に沿って、想像しながら詩を音読しようとしている。	
4月	なりきって書こう つづけてみよう 1時間（書①） ○修飾と被修飾との関係について理解することができる。（知・技(1)カ） ○書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ） ■好きなものなどになりきって想像したことを書く。		【知・技】修飾と被修飾との関係について理解している。（(1)カ）	
			【思・判・表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。（B(1)オ）	
			【態】進んで感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって、なりきって想像したことを書こうとしている。	
4月	ふしぎな出来事をとらえて読み、考えたことを話そう 白いぼうし 7時間（読⑦） ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ■不思議なところについて考えたことを話し合う。		【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（(1)ク）	
			【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。（C(1)イ）	
			【態】進んで登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習課題に沿って、不思議なところについて考えたことを話し合おうとしている。	
4月	図書館の達人になろう 1時間（知・技①） ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ■本の探し方を考えながら学校図書館で本を探す。 ☆学校図書館を活用した調べ学習（図書館活用）		【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ）	
			【態】進んで読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づき、これまでの学習をいかして、本の探し方を考えながら学校図書館で本を探そうとしている。	

4月	漢字辞典を使おう 2時間（知・技②） ◎漢字辞典の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ）	【知・技】漢字辞典の使い方を理解し使っている。（(2)イ）
		【態】進んで漢字辞典の使い方を理解し、学習課題に沿って、漢字辞典を使って調べようとしている。
4月	春の楽しみ 2時間（書②） ◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■春の行事の様子を伝える手紙を書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】積極的に春の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、春の行事の様子を伝える手紙を書こうとしている。
5月	大事なことを落とさずに聞こう 聞き取りメモのくふう 【コラム】話し方や聞き方からつたわること 6時間（話・聞⑥） ◎必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ○相手を見て話したり聞いたりすることができる。（知・技(1)イ） ■聞きたいことを聞き、その内容を伝えるためにメモを取る。 ☆I C T端末を活用した録音・録画（I C T活用）	【知・技】 ・相手を見て話したり聞いたりしている。（(1)イ） ・必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。（(2)イ）
		【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。（A(1)エ）
		【態】粘り強く必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話の中心を捉え、学習の見通しをもって、聞いたことを伝えるためにメモを取ろうとしている。
5月	カンジーはかせの都道府県の旅1 2時間（知・技②） ◎第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ■都道府県名を使った文を作る。 ☆地域に目を向けさせる題材（社会）	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、学習課題に沿って、都道府県名を使った文を作ろうとしている。
5月	漢字の広場① 2時間（書②） ◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）
		【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
5月	筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう 思いやりのデザイン アップとルーズで伝える 【じょうほう】考えと例 8時間（知・技①、読⑦） ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ○接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■筆者の考えに対してもった自分の考えを伝え合う。 ☆情報の発信のしかたやその意図に目を向けて課題を解決する学習（総合的な学習の時間）	【知・技】 ・接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（(1)カ） ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ）
		【態】粘り強く、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉え、学習の見通しをもって、自分の考えを伝え合おうとしている。

6月	気持ちが伝わる手紙を書こう お礼の気持ちを伝えよう 4時間（書④） ◎相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。（知・技(1)キ） ■お礼の手紙を書く。 ☆校外学習の見学先への礼状送付（社会、総合的な学習の時間）	
		【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（(1)キ）
		【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
6月	漢字の広場② 2時間（書②） ◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）
		【態】進んで相手や目的を意識して伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって、お礼の手紙を書こうとしている。
6月	場面をくらべて読み、心にのこったことを伝え合おう 一つの花 7時間（読⑦） ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■心に残ったことを伝え合う。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ）
		【態】粘り強く、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、心に残ったところを伝え合おうとしている。
6月	つなぎ言葉のはたらきを知ろう 2時間（知・技②） ◎接続する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）	【知・技】接続する語句の役割について理解している。（(1)カ）
		【態】積極的に接続する語句の役割を理解し、これまでの学習をいかして、つなぎ言葉を使って文を書こうとしている。
6月	短歌・俳句に親しもう（一） 1時間（知・技①） ◎易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ■短歌や俳句を音読したり暗唱したりして親しむ。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	【知・技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア）
		【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、短歌や俳句を音読したり暗唱したりしようとしている。
6月	【じょうほう】要約するとき 2時間（読②） ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。（思・判・表C(1)ウ） ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ■文章を要約する。 ☆多くの情報を集め、目的を意識して内容を要約、発信（総合的な学習の時間）	【知・技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。（C(1)ウ）
		【態】粘り強く目的を意識して中心となる語や文を見つけ、学習課題に沿って、文章を要約しようとしている。
6月 ～ 7月	見せ方を工夫して書こう 新聞を作ろう 【コラム】アンケート調査のしかた 10時間（書⑩） ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ○比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■新聞を作る。 ☆調べたことの整理、表現（社会、総合的な学習）	【知・技】比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。（(2)イ）
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（B(1)イ）
		【態】進んで書く内容の中心を明確にして構成を考え、学習の見通しをもって、新聞を作ろうとしている。

7月	カンジーはかせの都道府県の旅2 2時間（知・技②） ◎第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ■都道府県名を使った文を作る。 ☆地域に目を向けさせる題材（社会）	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、学習課題に沿って、都道府県名を使った文を作ろうとしている。
7月	夏の楽しみ 2時間（書②） ◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■夏の行事などを俳句にする。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】積極的に夏の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、夏の行事の様子を俳句で表現しようとしている。
7月	本は友達 本のポップや帯を作ろう 神様の階段 5時間（読⑤） ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ■読んでほしい1冊をポップや帯で紹介する。 ☆読書生活の充実（図書館活用）	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ）
		【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。（C(1)カ）
		【態】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって、本をポップや帯で紹介しようとしている。
9月	忘れもの ぼくは川 2時間（読②） ○詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ○詩を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■詩から受けた印象を伝え合う。	【知・技】詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（(1)ク）
		【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ）
		【態】進んで二つの詩を読んで理解したことに基づいて感想をもち、学習課題に沿って、詩から受けた印象を伝え合おうとしている。
9月	あなたなら、どう言う 3時間（話・聞③） ◎考えとそれを支える理由との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎目的を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ） ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■グループで役割を決めて、それぞれの立場で話し合いをする。 ☆I C T端末の活用による録音、録画（I C T活用）	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・考えとそれを支える理由との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（A(1)オ）
		【態】積極的に、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習課題に沿って、異なる立場に立って話し合いをしようとしている。
9月	パンフレットを読もう 2時間（読②） ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。（思・判・表C(1)ウ） ○読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■パンフレットの工夫について話し合う。 ☆調べ学習における情報収集（社会、総合的な学習の時間）	【知・技】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。（C(1)ウ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ）
		【態】積極的に目的を意識して中心となる語や文を見つけ、学習課題に沿って、パンフレットの工夫について話し合おうとしている。

9月	どう直したらいいかな 2時間（書②） ◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ○丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。（知・技(1)キ） ■文章を推敲する。 ☆日常生活や学習場面での記述とその見直し（各教科等）	【知・技】 ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。（(1)カ） ・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（(1)キ）
		【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）
		【態】 進んで文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、学習の見通しをもって、文章を推敲しようとしている。
9月	いろいろな意味をもつ言葉 2時間（知・技②） ◎様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○国語辞典の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ）	【知・技】 ・様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・国語辞典の使い方を理解し使っている。（(2)イ）
		【態】 進んで様子や行動を表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、言葉遊びの詩を作ろうとしている。
9月	ローマ字を使いこなそう 2時間（知・技②） ◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書くことができる。（知・技(1)ウ） ☆パソコンのキーボード入力など、必要な場面におけるローマ字の活用（I C T活用） ☆ローマ字表記と英語の違いの確認（外国語活動）	【知・技】 日常使われている簡単な単語について、ローマ字で書いている。（(1)ウ）
		【態】 積極的にローマ字の表記を考え、これまでの学習をいかして、ローマ字を書こうとしている。
9月	漢字の広場③ 2時間（書②） ◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○接続する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	【知・技】 ・第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） ・接続する語句の役割について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）
		【態】 進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
9月 ～ 10月	気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう ぎんぎつね 【コラム】言葉を分類しよう 12時間（知・技①、読①） ◎言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語の結末についての感想を書く。	【知・技】 言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ）
		【態】 進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、学習の見通しをもって、物語の結末についての感想を書こうとしている。
10月	漢字を正しく使おう 2時間（知・技②） ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ○第4学年までに配当されている漢字を読み、第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第4学年に配当されている漢字を漸次書くことができる。（知・技(1)エ）	【知・技】 ・漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） ・第4学年までに配当されている漢字を読み、第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第4学年に配当されている漢字を漸次書いている。（(1)エ）
		【態】 進んで同音異義語や送り仮名の付け方などについて理解し、学習課題に沿って、漢字を文や文章の中で使おうとしている。

10月	秋の楽しみ 2時間（書②） ◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■秋の行事の楽しさを伝える手紙を書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】積極的に冬の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、冬の行事の楽しさを知らせるかるたを作ろうとしている。
10月	役わりをいしきしながら話し合おう クラスみんなで決めるには 8時間（話・聞⑧） ◎比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ○目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ） ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■役割を意識しながらクラス全体で話し合って考えをまとめる。 ☆役割を意識して話し合う姿勢を育てる題材（特別活動） ☆自分と違う考えと接するときに、約束に則って適切に判断する態度について考える題材（道徳） ☆ＩＣＴ端末を活用した録音・録画（ＩＣＴ活用）	【知・技】比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。（(2)イ）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（A(1)オ）
		【態】積極的に役割を果たしながら話し合い、学習課題に沿って、考えをまとめようとしている。
11月	中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう 未来につなぐ工芸品 工芸品のみりょくを伝えよう 12時間（書⑥、読⑥） ◎事典の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。（思・判・表C(1)ウ） ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ■調べて分かったことなどをまとめて書く。 ☆インターネットを活用した情報収集（ＩＣＴ活用） ☆図書館を活用した調べ学習（図書館活用） ☆我が国の伝統と文化を大切にすることを育てる題材（道徳）	【知・技】 ・事典の使い方を理解し使っている。（(2)イ） ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ）
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。（C(1)ウ）
		【態】積極的に、中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫したりして、学習の見通しをもって、調べて分かったことをまとめて書こうとしている。
11月	慣用句 2時間（知・技①、書①） ◎長い間使われてきた慣用句の意味を知り、使うことができる。（知・技(3)イ） ・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■慣用句の意味を調べて文を作る。	【知・技】長い間使われてきた慣用句の意味を知り、使っている。（(3)イ）
		【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】進んで慣用句の意味を知り、学習の見通しをもって、慣用句を使った文を書こうとしている。
11月	短歌・俳句に親しもう（二） 1時間（知・技①） ◎易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ■短歌や俳句を音読したり暗唱したりして親しむ。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	【知・技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア）
		【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って、短歌や俳句を音読したり暗唱したりしようとしている。

11月	漢字の広場④ 2時間（書②） ◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）
		【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
12月	つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合おう 友情のかべ新聞 8時間（読⑧） ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ■おもしろいと思ったところを伝え合う。 ☆関連図書の読書（図書館活用）	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ）
		【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ）
		【態】積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けながら想像して読み、学習の見通しをもって、おもしろいと思ったところを伝え合おうとしている。
12月	理由や例を挙げて、考えを書こう もしものときにそなえよう 10時間（書⑩） ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■調べて考えたことを文章に書く。 ☆自然災害に備えた防災学習（社会、理科） ☆インターネットを活用した情報収集（I C T活用） ☆図書館を活用した調べ学習（図書館活用）	【知・技】考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】積極的に自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にし、学習の見通しをもって、調べて考えたことを文章に書こうとしている。
12月	冬の楽しみ 2時間（書②） ◎様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■冬の行事の楽しさを伝えるかるたを作る。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	【知・技】様子や行動を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】積極的に冬の行事やその様子などを表す語句の量を増し、学習の見通しをもって、冬の行事の楽しさを知らせるかるたを作ろうとしている。
1月	自分だけの詩集を作ろう 4時間（書②、読②） ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ■詩や詩集を読み、自分だけの詩集を作る。 ☆テーマに合った詩の収集（図書館活用）	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ）
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ・「読むこと」において、詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。（C(1)カ）
		【態】進んで目的を意識して詩を選び、学習の見通しをもって、自分だけの詩集を作ろうとしている。
1月	言葉から連想を広げて 2時間（書②） ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ○必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ■連想したことを基にひと言で詩を書く。	【知・技】必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。（(2)イ）
		【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】進んで連想を広げ、書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、ひと言で詩を書こうとしている。

1月	熟語の意味 2時間（知・技②） ◎第4学年までに配当されている漢字を読むことができる。（知・技(1)エ）	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を読んでいる。（(1)エ）
		【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を読み、これまでの学習をいかして、漢字や熟語を正しく読んだり書いたりしようとしている。
1月	漢字の広場⑤ 2時間（書②） ◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）
		【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
1月	きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう 風船でうちゅうへ 8時間（読⑧） ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ○様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■興味をもったところを中心に要約して紹介する文章を書く。 ☆調査・結果・考察など、記録・報告における事実と考えの整理（理科、総合的な学習の時間）	【知・技】 ・様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ） ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。（C(1)カ）
		【態】進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、要約して紹介する文章を書こうとしている。
2月	言葉について考えよう つながりに気をつけよう 4時間（知・技①、書③） ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■つながりに気をつけて文章を書く。	【知・技】主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）
		【態】進んで、主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解し、これまでの学習をいかして、つながりに気をつけて文章を書こうとしている。
2月	言葉を選んで詩を書き、友達と読み合おう 心が動いたことを言葉に 7時間（書⑦） ◎書こうとしたことが明確になっているかなど、詩に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ） ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や詩の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、連の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ■心が動いたことを詩に書いて友達と読み合う。	【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や詩の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、連の役割について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、詩に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。（B(1)オ）
		【態】進んで感想を伝え合い、これまでの学習をいかして、心が動いたことを言葉にして書いた詩を読み合っている。
2月 ～ 3月	調べて分かったことを話そう 調べて話そう、生活調査隊 8時間（話・聞⑧） ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話することができる。（知・技(1)イ） ◎目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ◎話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ■調査の報告をする。 ☆目的を意識して調査結果を整理、発表（社会、理科、総合的な学習の時間） ☆ＩＣＴ端末を活用した録音・録画（ＩＣＴ活用）	【知・技】 ・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。（(1)イ） ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。（A(1)イ） ・「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。（A(1)ウ）
		【態】進んで、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、これまでの学習をいかして、調査の報告をしようとしている。

3月	読んで考えたことを、友達と伝え合おう	
	スワンレイクのほとりで 7時間（読⑦） ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語を読んで考えたことを伝え合う。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。（C(1)カ）
		【態】進んで一人一人の感じ方に違いがあることに気づき、学習の見通しをもって、物語を読んで考えたことを伝え合おうとしている。
3月	漢字の広場⑥ 2時間（書②） ◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）
		【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、文を書こうとしている。
3月	四年生をふり返って 1時間（書①） ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■1年間の国語科での学びを振り返り、書く。	【知・技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。（(1)ア）
		【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】進んで経験したことなどから書くことを選び、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。

第5学年

		A十分満足できる	Bおおむね満足できる	評価方法
	【知・技】	テスト95点以上 語句の使い方や文と文の関係を理解し、学習した漢字や言葉を正しく読んだり書いたりする技能を身に付けている。	テスト65点以上 言葉の使い方や語と語の役割・関係を理解し、これまでに習った漢字を読んだり書いたりする技能を身に付けている。	テスト、ノート、ワークシート、発表、発言等
	【思・判・表】	テスト95点以上 筋道を立てて文章を書いたり、内容や要旨を把握しながら文章を読んだりし、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。	テスト65点以上 筋道を立てて文章を書いたり、内容や要旨を把握しながら文章を読んだりし、考えが伝わるように工夫して話したり、聞いたりしている。	テスト、ノート、ワークシート、発表、発言等
	【態】	言葉がもつよさを認識し、幅広く読書をしたり、すすんで思いや考えを伝え合おうとしたりしている。	言葉がもつよさを認識し、すすんで読書をしたり、思いや考えを伝え合おうとしたりしている。	ノート、ワークシート、発表、発言等
月	単元名・教材名・時数・指導目標		評価規準	
4月	ひみつの言葉を引き出そう 1時間（話・聞①） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。（思・判・表A(1)ア） ○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。（思・判・表A(1)エ） ■友達から「ひみつの言葉」を引き出せるように話す。	【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア）		
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討している。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。（A(1)エ）		
		【態】進んで自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもって友達から「ひみつの言葉」を引き出せるように話そうとしている。		
4月	かんがえるのっておもしろい 1時間（読①） ◎詩を音読することができる。（知・技(1)ケ） ○詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■音読して、想像したことを伝え合う。	【知・技】詩を音読している。（(1)ケ）		
		【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）		
		【態】進んで詩を音読し、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。		
4月	名前を使って、自己しょうかい 続けてみよう 1時間（書①） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解することができる。（知・技(1)カ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)カ） ■自分を紹介する文章を書く。	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。（(1)カ）		
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。（B(1)ア） ・「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。（B(1)カ）		
		【態】積極的に文章の構成や展開について理解し、これまでの学習をいかして自分を紹介する文章を書こうとしている。		
4月	人物の心情や人物どうしの関わりをとらえ、印象に残ったことを伝え合おう 銀色の裏地 5時間（読⑤） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ■印象に残ったことを伝え合う。 ☆友情、信頼や相互理解に関わる題材（道徳）			
		【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（(2)イ）		
		【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。（C(1)イ）		
		【態】粘り強く登場人物の相互関係や心情を捉え、学習の見通しをもって印象に残ったことを伝え合おうとしている。		

4月	図書館を使いこなそう 1時間（知・技①） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ■本を探して、記録カードを書く。 ☆図書館で本を探す活動（図書館活用）	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（(3)オ）
		【態】進んで読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づき、これまでの学習をいかして本を探して、記録カードを書こうとしている。
4月	漢字の成り立ち 2時間（知・技②） ◎漢字の由来、特質などについて理解することができる。（知・技(3)ウ）	【知・技】漢字の由来、特質などについて理解している。（(3)ウ）
		【態】進んで漢字の由来、特質などに関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
4月	春の空 1時間（書①） ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ■春らしいものや様子を文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材（道徳）	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア）
		【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。（B(1)ア）
		【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って春らしいものや様子を文章に書こうとしている。
5月	話の意図を考えてきき合い、「きくこと」について考えよう きいて、きいて、きいてみよう 6時間（話・聞⑥） ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)エ） ○話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。（知・技(1)イ） ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。（思・判・表A(1)ア） ■インタビューをし、報告する。 ☆インタビューを行い、報告する活動（社会、総合的な学習の時間） ☆インタビューの録音・録画（I C T活用）	【知・技】 ・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。（(1)イ） ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（(2)イ）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。（A(1)エ）
		【態】粘り強く話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習の見通しをもってインタビューをしたり、報告したりしようとしている。
5月 ～ 6月	文章の要旨をとらえ、考えたことを伝え合おう 見立てる 言葉の意味が分かること 【情報】原因と結果 7時間（知・技①、読⑥） ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（思・判・表C(1)ア） ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ■考えたことを伝え合う。 ☆外国語や異文化への興味をもち、理解する態度を養う題材（外国語、道徳、総合的な学習の時間）	【知・技】 ・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ）
		【態】粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
6月	敬語 2時間（知・技②） ◎日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。（知・技(1)キ） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ☆礼儀や言葉遣いが、円滑な人とのつながりをつくることについて考える題材（道徳）	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。（(1)キ）
		【態】進んで日常よく使われる敬語について理解し、学習課題に沿って使い慣れようとしている。

6月	表現を工夫して、俳句を作ろう 日常を十七音で 3時間（書③） ◎比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ◎俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ○俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けることができる。（知・技(1)ウ） ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■俳句を作る。	【知・技】 ・俳句の中で漢字と仮名を適切に使い分けている。（(1)ウ） ・比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク）
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） ・「書くこと」において、俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えている。（B(1)オ）
		【態】粘り強く構成や書き表し方などに着目して文言を整え、学習の見通しをもって俳句を作ろうとしている。
6月	漢字の広場① 1時間（書①） ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ）
		【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
6月	古典の世界（一） 2時間（知・技②） ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知・技(3)イ） ■古文を音読する。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材（道徳）	【知・技】 ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。（(3)イ）
		【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って古文を音読しようとしている。
6月	【情報】目的に応じて引用するとき 2時間（書②） ◎引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)エ） ○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ■引用カードを書く。 ☆レポート等を作成する際に、目的に応じて適切な引用を行う活動（理科、社会、総合的な学習の時間）	【知・技】情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。（(2)イ）
		【思・判・表】「書くこと」において、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)エ）
		【態】進んで目的に応じた引用のしかたを理解し、学習課題に沿って引用カードを書こうとしている。
6月 ～ 7月	伝えたいことを整理して、報告しよう	
	みんなが使いやすいデザイン 8時間（書⑧） ◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ■報告する文章を書く。 ☆よりよい社会や学校生活をつくろうと考える題材（道徳、総合的な学習の時間） ☆調べたことを報告する文章の書き方を工夫する活動（理科、社会、総合的な学習の時間） ☆インターネットによる情報収集（ＩＣＴ活用）	【知・技】情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。（(2)イ）
		【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】粘り強く目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係づけたりし、学習の見通しをもって報告する文章を書こうとしている。

7月	同じ読み方の漢字 2時間（知・技②） ◎第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【態】進んで同じ読み方の漢字の使い分けに関心をもち、これまでの学習をいかしてそれらを理解しようとしている。
7月	夏の夜 1時間（書①） ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ■夏らしいものや様子を文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材（道徳）	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア）
		【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。（B(1)ア）
		【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って夏らしいものや様子を文章に書こうとしている。
7月	本は友達 作家で広げるわたしたちの読書 モモ 5時間（読⑤） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■本の魅力を伝え合う。 ☆作家を意識して選んだ本を読む活動（図書館活用）	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（(3)オ）
		【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）
		【態】積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本の魅力を伝え合おうとしている。
9月	かぼちゃのつるが われは草なり 2時間（読②） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ■考えたことを伝え合う。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク）
		【思・判・表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ）
		【態】進んで比喩や反復などの表現の工夫に気づき、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
9月	どちらを選びますか 2時間（話・聞②） ◎思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。（思・判・表A(1)オ） ■立場に分かれて話し合う。 ☆適切な資料を用意し、相手が納得する説明をする活動（特別活動）	【知・技】思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。（(1)オ）
		【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（A(1)オ）
		【態】積極的に互いの立場を明確にして、これまでの学習をいかして立場に分かれて話し合おうとしている。
9月	新聞を読もう 2時間（読②） ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。（思・判・表C(1)ウ） ○文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（思・判・表C(1)ア） ■新聞記事を読む。 ☆新聞記事等による情報収集（社会、総合的な学習の時間）	【知・技】文章の構成や、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（C(1)ア） ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。（C(1)ウ）
		【態】進んで必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりし、学習課題に沿って新聞記事を読もうとしている。

9月	文章に説得力をもたせるには 2時間（書②） ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ■考えたことを伝え合う。	【知・技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（B(1)イ）
		【態】積極的に筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
9月	漢字の広場② 1時間（書①） ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ）
		【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
9月 ～ 10月	物語の全体像を想像し、考えたことを伝え合おう たすねびと 6時間（読⑥） ◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ■考えたことを伝え合う。 ☆戦争や平和について考えさせるとともに、平和を願う心を養う題材（道徳） ☆紹介された本を選んで読む活動（図書館活用）	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（知・技(1)ク）
		【思・判・表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ）
		【態】粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
10月	漢字の広場③ 1時間（書①） ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■示された言葉を使って、絵を基にして文を書く。	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ）
		【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
10月	方言と共通語 2時間（知・技②） ◎共通語と方言との違いを理解することができる。（知・技(3)ウ）	【知・技】共通語と方言との違いを理解している。（(3)ウ）
		【態】進んで方言と共通語の違いに関心を持ち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
10月	秋の夕 1時間（書①） ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ■秋らしいものや様子を文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材（道徳）	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア）
		【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。（B(1)ア）
		【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って秋らしいものや様子を文章に書こうとしている。

10月	たがいの立場を明確にして、話し合おう よりよい学校生活のために 【コラム】意見が対立したときには 6時間（話・聞⑥） ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。（思・判・表A(1)ア） ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。（思・判・表A(1)オ） ○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ■身の回りの問題について、それぞれの立場から考えを伝えて話し合う。 ☆身近な問題に気づき、仲間と共に解決を図る学習（特別活動、社会、総合的な学習の時間） ☆ＩＣＴ端末の機能を使って、出てきた考えを整理する活動（ＩＣＴ活用）	【知・技】 ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。（(1)オ） ・情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（(2)イ）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけてたりして、伝え合う内容を検討している。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（A(1)オ）
		【態】 粘り強く互いの立場や意図を明確にしながら、学習の見通しをもって身の回りの問題を解決するために話し合おうとしている。
11月	浦島太郎——「御伽草子」より 1時間（知・技①） ◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知・技(3)イ） ○親しみやすい古文の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○時間の経過による言葉の変化に気づくことができる。（知・技(3)ウ）	【知・技】 ・親しみやすい古文の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。（(3)イ）
		【態】 進んで昔の人のものの見方や感じ方を知り、学習課題に沿って古典の文章について思ったことを話そうとしている。
11月	和語・漢語・外来語 2時間（知・技②） ◎語句の由来などに関心をもつとともに、世代による言葉の違いに気づくことができる。（知・技(3)ウ） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ）	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・語句の由来などに関心をもつとともに、世代による言葉の違いに気づいている。（(3)ウ）
		【態】 進んで和語・漢語・外来語などの由来に関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
11月	資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう 固有種が教えてくれること 自然環境を守るために 【コラム】統計資料の読み方 10時間（書⑤、読⑤） ◎原因と結果など情報と情報とについて理解することができる。（知・技(2)ア） ◎引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)エ） ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。（思・判・表C(1)ウ） ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（思・判・表C(1)ア） ■筆者の説明のしかたの工夫について、考えをまとめて話し合ったり、統計資料を根拠にして意見文を書いたりする。 ☆図表・グラフ等と文章を関連させながら、説明されていることを読み取る活動（社会、算数、理科） ☆理由や根拠を明確にしながら自分の考えを記述する活動（社会、理科、家庭科） ☆固有種や環境について目を向けて考える題材（理科） ☆統計資料がある本を読む活動（図書館活用） ☆グラフや表の作成（ＩＣＴ活用）	【知・技】 ・原因と結果など情報と情報とについて理解している。（(2)ア） ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（(3)オ）
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)エ） ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（C(1)ア） ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。（C(1)ウ）
		【態】 粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして統計資料を用いた意見文を書こうとしている。
11月	カンジー博士の暗号解読 2時間（知・技②） ◎第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	【知・技】 第5学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【態】 進んで漢字の読み方に関心をもち、これまでの学習をいかして漸次書こうとしている。
12月	古典の世界（二） 1時間（知・技①） ◎親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知・技(3)イ） ■漢文を音読する。 ☆国語に対する関心と、我が国の文化と伝統に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	【知・技】 ・親しみやすい漢文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） ・作品の内容の大体を知ることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。（(3)イ）
		【態】 進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って漢文を音読しようとしている。

12月	漢字の広場④ 1時間（書①） ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■示された言葉を使って、それぞれの県についての文を書く。	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ）
		【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
12月	伝記を読み、自分の生き方について考えよう やなせたかし——アンパンマンの勇氣 5時間（読⑤） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ■伝記を読み、自分の生き方について考えたことを交流する。 ☆自分の郷土に目を向けさせる題材（総合的な学習の時間） ☆伝記の選書（図書館活用）	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（(3)オ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ）
		【態】積極的に文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを交流しようとしている。
12月	意見文を書いて読み合い、よいところを見つけよう あなたは、どう考える 6時間（書⑥） ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ◎文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)カ） ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■意見文を書く。 ☆自分の関心のあることから題材を決め、詳しく知りたいと思うことを調べる活動（社会、総合的な学習の時間） ☆意見や理由とその根拠を説明する活動（社会、総合的な学習の時間） ☆I C T端末に文章構成の表を用意し、付箋機能を使い、文章の構成を考える活動（I C T活用）	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） ・「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。（B(1)カ）
		【態】積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。
12月	冬の朝 1時間（書①） ◎親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ■冬らしいものや様子を文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化を尊重する態度を養う題材(道徳)	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア）
		【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。（B(1)ア）
		【態】積極的に言葉の響きやリズムに親しみ、学習の課題に沿って冬らしいものや様子を文章に書こうとしている。
1月	好きな詩のよさを伝えよう 2時間（書①、読①） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■詩を紹介する文章を書く。 ☆詩集を読む活動（図書館利用）	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク）
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。（B(1)ア） ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）
		【態】積極的に詩を読んでまとめた感想を共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。

1月	言葉でスケッチ 2時間（書②） ◎目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ○比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ■情景が伝わるように書く。	【知・技】 比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク）
		【思・判・表】 「書くこと」において、目的や意図に応じて事実と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】 粘り強く自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習課題に沿って情景が伝わるように書こうとしている。
1月	熟語の読み方 2時間（知・技②） ◎第5学年までに配当されている漢字を読むことができる。（知・技(1)エ）	【知・技】 第5学年までに配当されている漢字を読んでいる。（(1)エ）
		【態】 進んで熟語の読み方に関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
1月	漢字の広場⑤ 1時間（書①） ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■示された言葉やつなぎ言葉を使って、道順を案内する文を書く。	【知・技】 第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】 「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ）
		【態】 進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
1月	事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合おう 想像力のスイッチを入れよう 6時間（読⑥） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■メディアとの関わりについて考えを伝え合う。 ☆メディアとの関わり方について理解し、考えをもつ題材（総合的な学習の時間、日常生活）	【知・技】 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ） ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）
		【態】 積極的に文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習の見通しをもってメディアとの関わり方について話し合おうとしている。
1月	複合語 2時間（知・技②） ◎語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）	【知・技】 語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。（(1)オ）
		【態】 進んで複合語の構成や変化について関心をもち、学習課題に沿ってそれらを理解しようとしている。
2月	言葉について考えよう 言葉を使い分けよう 3時間（知・技①、書②） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■手紙を書く。	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ）
		【思・判・表】 「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】 積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題に沿って手紙を書こうとしている。

2月	読む人を意識して構成を考え、物語を書こう もう一つの物語 6時間（書⑥） ◎話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ■別の物語に書き換える。	
		【知・技】話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（B(1)イ）
2月 ～ 3月	事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう 「子ども未来科」で何をする 6時間（話・聞⑥） ◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。（知・技(1)イ） ◎話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■提案するスピーチを行う。 ☆自分の関心のあることから題材を決め、詳しく知りたいと思うことを調べる活動（社会、総合的な学習の時間） ☆意見や理由と根拠を説明する活動（社会、総合的な学習の時間） ☆練習時のスピーチの録音・録画（I C T活用）	【知・技】 ・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。（(1)イ） ・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。（A(1)イ） ・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。（A(1)ウ）
		【態】粘り強く話の構成を考え、学習の見通しをもって提案するスピーチをしようとしている。
3月	登場人物の心情の変化に着目して読み、物語のみりょくを伝え合おう 大造じいさんとガン 6時間（読⑥） ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○文章を音読したり朗読したりすることができる。（知・技(1)ケ） ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語の魅力を伝える文章を書く。 ■物語の魅力が表れているところを朗読する。	【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） ・文章を音読したり朗読したりしている。（(1)ケ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）
		【態】積極的に意見や感想を共有し、学習の見通しをもって物語の魅力を伝え合おうとしている。
3月	漢字の広場⑥ 1時間（書①） ◎第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■示された言葉を使って、出来事を報道する文を書く。	【知・技】第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ）
		【態】進んで第4学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして文を書こうとしている。
3月	五年生をふり返って 1時間（書①） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選ぶことができる。（思・判・表B(1)ア） ■1年間の国語科での学びを振り返って、書く。	【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア）
		【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選んでいる。（B(1)ア）
		【態】進んで考えたことなどから書くことを選び、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。

第6学年

		A十分満足できる	Bおおむね満足できる	評価方法
	【知・技】	95点以上 語句の使い方や文と文の関係を工夫して活用し、これまでに習った漢字や言葉 を正しく読んだり書いたりする技能を身に付けている。	70点以上 語句の使い方や文と文の関係を理解し、これまでに習った漢字や言葉を正し く読んだり書いたりする技能を身に付けている。	ワークテスト 漢字テスト
	【思・判・表】	考えが伝わるように必要な資料を用意して話したり、聞いたりするととも に、構成を工夫して文章を書いたり、内容や要旨を把握しながら文章を読ん だりしている。	考えが伝わるように工夫して話したり、聞いたりするとともに、筋道を立て て文章を書いたり、内容や要旨を把握しながら文章を読んだりしている。	ノート スピーチ
	【態】	言葉がもつよさを認識し、すすんで活用したり、思いや考えを伝え合おうと したりしている。また、読書量が多い。	言葉がもつよさを認識し、すすんで読書をし、思いや考えを伝え合おうとし ている。	発言 読書
月	単元名・教材名・時数・指導目標		評価規準	
4月	つないで、つないで、一つのお話 1時間（話・聞①） ◎自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめることが できる。（思・判・表A(1)エ） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1) ア） ■グループで一人1文ずつつないで、一つのまとまった話を作る。 ☆よりよい人間関係の形成に関する題材（特別活動）	【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア）		
		【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめている。（A(1)エ）		
		【態】進んで話の内容を捉えながら相手の話を聞き、これまでの学習をいかしてお話作りに取り組もうとしている。		
4月	準備 1時間（読①） ◎詩を音読することができる。（知・技(1)ケ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・ 表C(1)エ） ■詩の音読を聞き合い、感じたことを伝え合う。 ☆希望と勇気、努力と強い意志に関する題材（道徳）	【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） ・詩を音読している。（(1)ケ）		
		【思・判・表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ）		
		【態】進んで詩を音読し、学習課題に沿って感じたことを伝え合おうとしている。		
4月	伝わるかな、好きな食べ物 続けてみよう 1時間（書①） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、 自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)カ） ■文章を読み合い、紹介されている食べ物を当て合う。 ☆食生活への関心を高める題材（家庭科）	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク）		
		【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。（B(1)カ）		
		【態】積極的に表現を工夫し、これまでの学習をいかして互いの文章を読み合おうとしている。		
4月	視点や作品の構成に着目して読み、印象に残ったことを伝え合おう			
	帰り道 5時間（読⑤） ◎文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1) カ） ◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。（思・判・表 C(1)イ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ■物語を読み、印象に残ったことについて考えをまとめ、伝え合う。 ☆友情や信頼、相互理解や寛容に関する題材（道徳）	【知・技】 ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク）		
	【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。（C(1)イ）			
	【態】進んで登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉え、学習の見通しをもって印象に残ったことについて考えを伝え合おうとしている。			

4月	公共図書館を活用しよう 1時間（知・技①） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ☆公共図書館の資料やサービスの利用（図書館活用、社会） ☆公共図書館のウェブサイトや電子図書館の利用（ICT活用）	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（(3)オ）
		【態】進んで公共図書館の役割や特徴について知り、学習課題に沿って利用してみたいものや本の記録のしかたについて考えようとしている。
4月	漢字の形と音・意味 2時間（知・技②） ◎漢字の由来、特質などについて理解することができる。（知・技(3)ウ） ○第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	【知・技】 ・第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） ・漢字の由来、特質などについて理解している。（(3)ウ）
		【態】進んで漢字の由来、特質などについて理解し、これまでの学習をいかして漢字を文や文章の中で使おうとしている。
4月	春のいぶき 1時間（書①） ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■身の回りで感じた「春」を、俳句や短歌に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）	【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして俳句や短歌を作ろうとしている。
5月	インタビューをして、自分の考えと比べながら聞こう 聞いて、考えを深めよう 6時間（話・聞⑥） ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)エ） ○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。（知・技(1)キ） ■インタビューをする。 ☆よりよい学校生活、集団生活の充実に関する題材（道徳） ☆礼儀や敬語が円滑な人とのつながりをつくることを実感する活動（道徳） ☆インタビューを通して必要な情報を集め、自分の考えを深める教材（社会、総合的な学習の時間） ☆ICレコーダーなどの機器によるインタビューの録音（ICT活用）	
		【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。（(1)キ）
		【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。（A(1)エ）
		【態】進んで話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習課題に沿ってインタビューをしようとしている。
5月	漢字の広場① 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵の中の出来事を伝える記事を書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ）
		【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして記事を書こうとしている。
5月 ～ 6月	主張と事例の関係をとらえ、自分の考えを伝え合おう 笑うから楽しい 時計の時間と心の時間 【情報】主張と事例 7時間（知・技①、読⑥） ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（思・判・表C(1)ア） ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ■主張を述べた文章を読み、自分の考えを伝え合う。 ☆物事を科学的に考えるよさに目を向ける題材（理科）	【知・技】 ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ）
		【態】進んで事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。

6月	文の組み立て 2時間（知・技②） ◎文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。（知・技(1)カ）	【知・技】文の中での語句の係り方や語順について理解している。（(1)カ）
		【態】進んで文の中での語句の係り方や語順について理解し、これまでの学習をいかして設問に取り組もうとしている。
6月	表現を工夫して短歌を作り、読み合おう たのしみは 3時間（書③） ◎短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)カ） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○語句の係り方や語順、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■日常の中の楽しみや喜びを短歌に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道德）	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・語句の係り方や語順、話や文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） ・「書くこと」において、短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけている。（B(1)カ）
		【態】学習の見通しをもって短歌を作り、積極的に短歌に対する感想や意見を伝え合おうとしている。
6月	天地の文 1時間（知・技①） ◎近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知・技(3)イ） ■文語調の文章を音読する。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道德）	【知・技】 ・近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。（(3)イ）
		【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、これまでの学習をいかして音読しようとしている。
6月	【情報】情報と情報をつなげて伝えるとき 2時間（書②） ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■条件に即して、報告書を書き直す。 ☆調べた情報を整理して伝える方法を学ぶ教材（理科、社会、総合的な学習の時間）	【知・技】情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（(2)イ）
		【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】進んで情報と情報との関係づけのしかたについて理解を深め、学習課題に沿って報告書を書き直そうとしている。
6月 ～ 7月	構成を考えて、提案する文章を書こう デジタル機器と私たち 8時間（書⑧） ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ○文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ■考えたことや伝えたいことを基に提案する文章を書く。 ☆デジタル機器への関心を高める題材（ＩＣＴ活用） ☆図書館での情報収集（図書館活用） ☆インターネットによる情報収集や、文書作成ソフトによる制作（ＩＣＴ活用） ☆インタビューによる情報収集（社会、総合的な学習の時間） ☆調べたことを基に、提案する文章を書く活動（社会、総合的な学習の時間）	【知・技】 ・文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（B(1)イ）
		【態】積極的に文章全体の構成や展開を考え、学習の見通しをもって提案する文章を書こうとしている。
7月	夏のさかり 1時間（書①） ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■季節を感じる語句を使って、手紙を書く。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道德）	【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして手紙を書こうとしている。

7月	本は友達 私と本 星空を届けたい 5時間（読⑤） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■テーマに沿って読んだ本を紹介するブックトークを行う。 ☆ブックトークに向けた読書（図書館活用） ☆共生社会に目を向ける題材（道徳）	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（(3)オ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ） ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）
		【態】進んで読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づき、これまでの学習をいかしてブックトークをしようとしている。
9月	せんねんまんねん 名づけられた葉 2時間（読②） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ◎詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ■詩を読み、考えたことを伝え合う。 ☆個性の尊重、努力と強い意志に関する題材（道徳）	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク）
		【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ）
		【態】積極的に表現の工夫に気づき、これまでの学習をいかして考えたことを伝え合おうとしている。
9月	いちばん大事なものは 2時間（話・聞②） ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。（思・判・表A(1)オ） ■メンバーを替えながら、グループで考えを尋ね合う。 ☆よりよい人間関係の形成に関する題材（特別活動） ☆相互理解、寛容に関する題材（道徳）	【知・技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）
		【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（A(1)オ）
		【態】積極的に考えを広げ、学習課題に沿って考えを尋ね合おうとしている。
9月	インターネットでニュースを読もう 3時間（読③） ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができる。（思・判・表C(1)ウ） ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ■ニュースサイトと新聞を比較して読む。 ☆インターネットによる情報収集（ICT活用）	【知・技】文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけている。（C(1)ウ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ）
		【態】進んでニュースサイトの特徴を理解し、これまでの学習をいかしてニュースサイトと新聞を比較して読もうとしている。
9月	文章を推敲しよう 2時間（書②） ◎文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解することができる。（知・技(1)カ） ■文章を推敲する。 ☆持続可能な社会に関する題材（社会）	【知・技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ）
		【態】進んで文章全体の構成や書き表し方などに着目し、学習課題に沿って文章を推敲しようとしている。
9月	漢字の広場② 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵の中の人々の行動を説明する文章を書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ） 【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして物語を書こうとしている。
		【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ）
		【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。

9月 ～ 10月	作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合おう やまなし 【資料】イーハトーヴの夢 8時間（読⑧） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ◎物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ■物語と資料を重ねて読み、作品世界について考えたことを書いて、伝え合う。 ☆生命や自然との関わりに関する題材（道徳） ☆キャリア形成と自己実現に目を向ける題材（特別活動）	【知・技】 ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク）
		【思・判・表】「読むこと」において、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ）
		【態】粘り強く物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりし、学習の見通しをもって作品世界について考えたことを書き、伝え合おうとしている。
10月	漢字の広場③ 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵を基に、冒険物語を書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ）
		【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして物語を書こうとしている。
10月	熟語の成り立ち 2時間（知・技②） ◎語句の構成や変化について理解することができる。（知・技(1)オ） ○第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	【知・技】 ・第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） ・語句の構成や変化について理解している。（(1)オ）
		【態】進んで熟語の構成についての理解を深め、学習課題に沿って熟語を探したり組み合わせを考えたりしようとしている。
10月	秋の深まり 1時間（書①） ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■身の回りで感じた「秋」を、俳句や短歌に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）	【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして俳句や短歌を作ろうとしている。
10月	目的や条件に応じて話し合おう みんなで楽しく過ごすために 【コラム】伝えにくいことを伝える 6時間（話・聞⑥） ◎思考に関わる語句の量を増し、話の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。（思・判・表A(1)オ） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。（思・判・表A(1)ア） ■目的や条件に応じて話し合う。 ☆学校における多様な集団の生活の向上に関する題材（特別活動） ☆親切や思いやり、相互理解や寛容に関する題材（道徳） ☆探究的な課題の解決に関する活動（総合的な学習の時間）	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っている。（(1)オ）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（A(1)オ）
		【態】粘り強く考えを広げたりまとめたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
10月	話し言葉と書き言葉 1時間（知・技①） ◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。（知・技(1)イ）	【知・技】話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。（(1)イ）
		【態】進んで話し言葉と書き言葉との違いに気づき、これまでの学習をいかして設問に取り組もうとしている。

11月	古典芸能の世界 狂言「柿山伏」を楽しもう 2時間（知・技②） ◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知・技(3)イ） ○親しみやすい古典芸能の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ■狂言を音読したり、演じたりする。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）	【知・技】 ・親しみやすい古典芸能の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。（(3)イ） 【態】 進んで昔の人のものの見方や感じ方を知り、これまでの学習をいかして「柿山伏」を音読したり演じたりしようとしている。
11月	筆者の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう 『鳥獣戯画』を読む 発見、日本文化のみりょく 10時間（書⑤、読⑤） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。（思・判・表C(1)ウ） ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（思・判・表C(1)ア） ■学校図書館などを利用し、日本文化について調べたことや、それに対する考えを文章に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳） ☆日本文化についての関連読書（図書館活用） ☆我が国の美術作品の造形的なよさや美しさなどを鑑賞する活動（図画工作）	【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（(3)オ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（C(1)ア） ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。（C(1)ウ）
		【態】 粘り強く論の進め方について考えたり、書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって日本文化のよさを伝える文章を書こうとしている。
11月 ～ 12月	カンジー博士の漢字学習の秘伝 2時間（知・技②） ◎文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことができる。（知・技(1)ウ） ○第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	【知・技】 ・文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。（(1)ウ） ・第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【態】 工夫して漢字学習を行うことに進んで取り組み、これまでの学習をいかして漢字を正しく書こうとしている。
12月	漢字の広場④ 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵の中の出来事などを説明する文章を書く。	【知・技】 第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】 「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ）
		【態】 積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
12月	物語を読んで考えたことを、伝え合おう ぼくのブック・ウーマン 4時間（読④） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験と結び付けてまとめ、語り合う。 ☆本の役割や読書の意義に目を向ける題材（図書館活用） ☆翻訳作品についての関連読書（図書館活用）	【知・技】 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（(3)オ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像している。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ）
		【態】 進んで文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

12月	相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう おすすめパンフレットを作ろう 6時間（書⑥） ◎引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)エ） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ■推薦したいものを、パンフレットにまとめる。 ☆図書館での情報収集（図書館活用） ☆インターネットによる情報収集（ＩＣＴ活用）	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)エ）
		【態】進んで引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって推薦したいものをパンフレットにまとめようとしている。
12月	冬のおとずれ 1時間（書①） ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■季節を感じる語句を使って、手紙を書く。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）	【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして手紙を書こうとしている。
1月	詩を朗読しようかいしょう 2時間（読②） ◎詩を朗読することができる。（知・技(1)ケ） ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■お気に入りの詩を朗読して紹介する。 ☆詩集からお気に入りの詩を選ぶ活動（図書館活用）	【知・技】 ・詩を朗読している。（(1)ケ） ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（(3)オ）
		【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）
		【態】進んで詩を朗読し、これまでの学習をいかしてお気に入りの詩を紹介しようとしている。
1月	知ってほしい、この名言 2時間（書②） ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■名言を紹介する。 ☆本やことわざ辞典、名言集などによる情報収集（図書館活用） ☆インターネットによる情報収集（ＩＣＴ活用）	【知・技】情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（(2)イ）
		【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
		【態】進んで集めた材料を分類したり関係づけたりし、学習課題に沿って名言を紹介しようとしている。
1月	日本の文字文化 【コラム】仮名づかい 2時間（知・技②） ◎文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことができる。（知・技(1)ウ） ◎語句の由来などに関心をもち、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解することができる。（知・技(3)ウ） ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）	【知・技】 ・文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。（(1)ウ） ・語句の由来などに関心をもち、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。（(3)ウ）
		【態】進んで仮名及び漢字の由来、特質などについて理解し、これまでの学習をいかして適切な表記を考えようとしている。

1月	漢字の広場⑤ 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵の中の様子を説明する文章を書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ）
		【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
1月	筆者の考えを読み取り、テーマについて考えを述べ合おう 「考える」とは 6時間（読⑥） ◎文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ■複数の文章を読み、考えたことを伝え合う。 ☆一人一人のキャリア形成と自己実現に関する題材（特別活動） ☆真理の探究に関する題材（道徳）	【知・技】 ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。（(1)オ） ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ） ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）
		【態】粘り強く文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
1月	使える言葉にするために 1時間（知・技①） ◎第6学年までに配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ☆各教科の学習の中で使われる言葉（社会、算数、理科）	【知・技】第6学年までに配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【態】進んで第6学年までに配当されている漢字を読み、これまでの学習をいかして、読み方や意味が分からない言葉を辞書で調べようとしている。
1月 ～ 2月	言葉について考えよう 日本語の特徴 3時間（知・技①、書②） ○語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。（知・技(1)カ） ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■日本語の特徴を紹介する文章を書く。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳） ☆日本語と外国語の違いに気づき、その背景にある文化に対する理解を深める題材（外国語）	【知・技】 ・語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・文の中での語句の係り方や語順について理解している。（(1)カ）
		【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】進んで日本語の特徴について理解を深め、学習課題に沿って日本語の特徴を紹介する文章を書こうとしている。
2月	書き表し方を工夫して、経験と考えを伝えよう 大切にしたい言葉 6時間（書⑥） ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■大切にしたい言葉に対する思いを書く。 ☆キャリア形成と自己実現に関する題材（特別活動）	【知・技】語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ）
		【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
		【態】積極的に自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって大切にしたい言葉に対する思いを書こうとしている。
2月	資料を使って、みりよく的なスピーチをしよう 今、私は、ぼくは 6時間（話・聞⑥） ◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。（知・技(1)イ） ◎資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。（知・技(1)キ） ○話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ■自分の思いや考えを伝えるスピーチをする。 ☆キャリア形成と自己実現に関する題材（特別活動） ☆希望と勇気、努力と強い意志に関する題材（道徳） ☆プレゼンテーションソフトを使った活動（ICT活用）	【知・技】 ・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。（(1)イ） ・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。（(1)キ）
		【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。（A(1)イ） ・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。（A(1)ウ）
		【態】積極的に資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫し、学習の見通しをもって自分の思いや考えを伝えるスピーチをしようとしている。

3月	登場人物の生き方について、考えたことを話し合おう 海の命 6時間（読⑥） ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ○比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ■それぞれの人物の生き方に対する考えを話し合う。 ☆よりよく生きる喜びや生命の尊さに目を向ける題材（道徳）	
		【知・技】 比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク）
		【思・判・表】 ・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）
3月	漢字の広場⑥ 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵の中のさまざまな場面の様子を想像して、文章を書く。	【知・技】 第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ）
		【思・判・表】 「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ）
		【態】 積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
3月	卒業するみなさんへ 中学校へつなげよう 生きる 人間は他の生物と何がちがうのか 4時間（書①、読③） ○比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○詩を朗読することができる。（知・技(1)ケ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ○詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■詩と文章を読んで、感じたことを伝え合ったり、考えをまとめたりする。 ☆相互理解や寛容、公平や社会正義、よりよく生きる喜びに目を向ける題材（道徳） ☆探究的な見方・考え方を働かせ、自己の生き方を考えていく題材（総合的な学習の時間）	【知・技】 ・比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） ・詩を朗読している。（(1)ケ）
		【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている（B(1)ア） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ） ・「読むこと」において、詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）
		【態】 積極的に6年間の国語学習を振り返り、これまでの学習をいかして、詩を読んで感じたことを伝え合ったり、文章に対する自分の考えをまとめたりしようとしている。